

所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ
前項ノ公告ニハ土地收用審査委員會ヲ開クハキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見書ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地收用審査委員會ヲ開クヘシ土地收用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地收用又ハ使用ノ區域收用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ
補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ビ其見積書ノ當否ヲ調査セシムヘシ

第十二條 土地收用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條 土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ著手ス

ルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審トス

補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ價值ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ

第十九條 土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二十條 收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁墻柵及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十一條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 收用又ハ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サシカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物ヲ増加シタル
實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ日
マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條 土地ノ建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地
ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ
見積ルコトヲ得ルモノニ限リ各別ニ之ヲ補償スヘシ
書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡
ヲ請求スルヲ俟テ拂渡スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人ノ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ
第二十五條 工事ノ仕様或補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ
廢スル場合ニ於テ所有者及關係人ノ方爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ
得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依リ
第二十六條 收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人
ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得
若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條 天災時變ニ際シ急應ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長
之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依
リ之ヲ行フヘシ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使
用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章 土地收用審査委員

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故
障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條 起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人並其父子兄弟ハ土地收用審査委員
會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條 土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所
有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條 土地收用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條 土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス
會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル鑑定人
ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不用ニ歸
シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルトキハ官報及其

地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲ササルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シタルトキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條 國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之ヲ行フ

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戸長之ヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百三十三號達公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

土地收用協議會規則 (明治廿三年七月法律第五十四條)

朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ送ケル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者(官ノ起業ニ係ルトキハ其主任官吏)及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クとも開會十日前前條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ

協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ開クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ開キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ開クモノトス

正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出ササル者アルトキハ工事ノ仕様及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統率シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀聞セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當立協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

權利収用ニ關スル件 (明治三十二年三月法律第七十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル權利収用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ニ付テハ土地收用法ノ規則ヲ準用ス

華士族及上下一般ノ貸借並再立藩々再立以前ノ貸借

裁判期限 (明治五年十月布告第三百號)

- 一 華士族卒へ掛リ候金穀貸借ハ明治二年己巳六月郡縣ノ制被仰出候以前ノ分ハ裁判ニ不及候事
- 一 靜岡及ヒ仙臺會津其外再立ノ藩々再立以前ノ金穀貸借ハ裁判ニ不及候事
- 一 自今貴賤上下一般ノ人民互ニ期ヲ約シテ金銀貸借シ若シ期ニ及テ不返時内證屢催促ヲナスト雖モ期月後滿五年ニ至ル迄一度モ訴出サル者ハ裁判ニ不及候事
但當七月以前ノ貸借ノ分ハ此ノ限ニアラス
- 一 從前今後共家祿ヲ引當ニ致シ候金銀貸借ノ義ハ一切裁判ニ不及候事

華士族卒へ掛ル貸借裁判取捨ニ付心得方

(明治五年十一月司法省布達第四十一號)

太政官第三百號ノ御布告ニ基キ左之通可心得此旨及布達候事

第一條 華士族卒へ掛金穀貸借ハ明治二年己巳六月二十五日以前ノ分ハ不取上翌二十六日以後ノ分ハ取上裁判スヘキ事

但華士族卒ヨリ平民へ係ルモ本條之通タルヘシ

第二條 預リ金穀ハ證文面預ケ金穀ノ名目ニテ利足有之亦ハ預リ人へ融通セシムル廉ヲ以禮金等ヲ請ケル分ハ第一條ノ通心得ヘク尤全ク預ケ金ニテ利足禮金ヲ請ケサル分ハ及裁判若シ其金穀ヲ費用シ濟方不埒明時ハ「斷獄課」へ可引渡事

第三條 元士族卒當時歸農商ノ分及ヒ己巳六月ノ改革ニ付三代以下ニテ平民トナル者己巳六月二十五日以前ノ證文ニテ其節士族卒ナレハ取上ヘカラサル事

第四條 神職僧侶等ニ關スル分ハ貸借ノ節准士族卒ナレハ士族ヲ以テ可取扱事

第五條 明治二年己巳六月二十五日以前ノ金穀貸借ヲ證文ニ書改メタル分ハ不取上候事

第六條 己巳六月二十五日以前ノ貸借ニテ華士族卒へ掛ル分ハ御布告前審判亦ハ對談日延中ト雖濟方不及裁判旨可申渡事

第七條 御布告前身代限申渡濟之分ハ申渡ノ通可及處分事

第八條 從前出訴吟味中和解シ家祿ヲ引當トナシ新規證文ニ改メ濟口開屆ケタルハ御布告ニ依リ不及裁判事

第九條 從前華士族ノ名目ヲ用ヒタル貸附金ハ第三百號ノ御布令ニ依リ取上クヘカラス候事

第十條 動産不動産ヲ債主ニ質入シタル者ハ取上裁判可致事

附リ沾券狀ヲ債主ニ渡シ金穀ヲ借用セシ者モ本條ニ準シ質入ト看做スヘキ事

二十年以前ニ係ル預ケ金穀ノ訴訟ハ裁判ニ及ハス

(明治十年一月布告第十二號)

預ケ金穀ノ訴訟ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ル明文アルモノハ年數ニ拘ハラズ受理スヘキ成規ニ候處自今二十年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及候條此旨布告候事

預ケ金穀裁判不及年限指稱方 (明治十年八月司法省達丁第五十九號)

本年第十二號公布ノ儀ニ付太政官ヘ甲號ノ通上申候處乙號ノ通御裁令有之候條此段爲心得相違候事

甲號本年第十二號公布ノ儀ニ付上中(十年四月十日)

本年第十二號公布預ケ金穀訴訟ノ儀ハ過去ノ事ヲ指サヤ將來ノ事ヲ謂フヤ法文明確ヲ缺クト雖モ思フニ必ス既往ノ事ノヨリ限リ一時ノ活斷ヲ以テ之カ限界ヲ立テシ者ニシテ即チ丁卯以前ノ貸借訴訟ハ不採上ノ類ナラント信用セリ若シ之ヲ將來ノ事トシ通常ノ出訴期限ヲ定メラシタル者トセハ抑モ又附託物(預物)云金銀ナラハ封印ノ儘マ融通使用ヲ許サ、ルモノ)ニ出訴ノ期限ヲ設クルハ何等ノ理由ナリヤ本來預ケ預リノ約ハ金穀貸借ノ約ト其性質ヲ異ニスルモノナルニ出訴ノ期限ヲ設クルハ政府ノ法律ヲ設ケテ我カ人民ノ權利財產ヲ保護スルノ原理ニ戻ルモノナリ今此貸借ト其性質ヲ異ニシ金穀貸借ニ出訴期限ヲ設ケ預ケ預リノ約ニ出訴期限ヲ設ケ可カラサルノ理由ヲ

述ントス抑政府保護ノ點ヨリ之ヲ論スル時ハ假令幾多ノ歲月ヲ經ルト雖モ貸タル者ヘハ取返スヘキノ權利ヲ伸張セシメ借タル者ヘハ返償スヘキノ義務ヲ執行セシムルコソ當然ノ理ナリ然レトモ年移リ物換リ事跡モ自ラ埋滅シテ其證ヲ得ルニ由ナク假令ヒ之ヲ得ルモ證以テ證トナスニ足ラス徒ニ紛争ヲ生シ權利者却テ權利ヲ失ヒ義務者却テ義務ヲ免ル、ニ至ルノ恐アリ元來金穀ノ貸借タルヤ貸主ハ其契約期限ニ至ラサレハ返償ヲ要求スルノ權ナク借主ハ公ニ之ヲ自由ニ使用スル所有權ヲ得タル者ニテ期限ニ至リ始メテ返償ノ義務アリ故ニ債主其期限ヲ過テ數十年ノ久ヲ經ルモ一應ノ催促ナク又訴フルコトモ無キ時ハ法律上借主ハ曩既ニ返償シタル者ト看做シ又債主ハ既ニ其權利ヲ拋棄シタル者ト看做スノ理由ニ基ク是レ金穀貸借上出訴期限ノ設アル所以ナリ然ルニ附託ノ約ハ本來懇親信用ノ點ヨリ起ル者ニシテ財產ヲ自家ニ藏貯スルノ安堵ナラサルカ或ハ子孫ノ爲メ慮ル所アルヨリ之ヲ他人ニ附託シ保護ヲ依頼スル所以ナルヲ以テ(預ケ金)ハ必ス融通使用スルコト無ク之ヲ貯藏スル者ナリ) 附託者ハ何時タリトモ之ヲ取戻ヲ得ヘキハ固ヨリ言テ俟タス受託者ニ在テハ受託中致テ其所有權ヲ得タル者ニアラス其所有權ハ他人ニアルコトヲ明認シテ其附託ヲ受ケ之ヲ保護スルノ義務アルモノニテ附託者ノ求ニ應シ何時モ之ヲ返戻セサル可ラサルノ理由アリ故ニ制法者ハ此ノ理由ニ基ツキ雙方ノ權利義務ヲ保護完全ナラシムヘキモノナリ是レ其附託物等ニ出訴ノ期限ヲ設クヘカラサルノ理由ナリ(彼ノ有名ナル佛國民法中此ノ期限法ヲ立テサル所以ナラン) 然レトモ受託者受託ノ物品ヲ轉賣若クハ遺失等ヲナシ現存セサル時附託者ヨリ要價ノ訴ヲナスハ固ヨリ出訴ノ期限ヲ要スヘキナリ請フ管ニ之ヲ論セン元來受託者ハ最初契約ノ時ヨリ一種ノ義務ヲ負フ者ナリ第一ハ附託者ノ求メニ從ヒ何時タリトモ返戻スヘキノ義務アリ第二ハ若シ返戻シ能ハサル時ハ其價ヲ爲ススヘキノ義務アリ故ニ其物品附託者ノ手ニ現存セサ

ル時ノ第二ノ場合即チ其償ノ要求ヲナサレハカラス是ニ於テハ其附託物ヲ轉賣遺失セシヨリ
出訴ノ期限ヲ起算スヘク若シ附託者ヨリ轉賣遺失等ノ日ヲ證據立ル能ハサル時ハ初メ附託契約ノ
時ヨリ起算スヘキ者タリ(抑モ附託契約ハ全ク附託者ノミニ權利アリテ其附託セシ翌日ニテモ又
何時ニテモ取戻シ得ヘキ者ナルニ付キ若シ其證ヲ立ル能ハサル時ハ其附託契約ノ日ヨリ起算セサ
ル可カラサル理由アルモノナリ(是レ法理ノ然ラシムル所蓋斯場合ニ至テハ一般貸借要債ト同一
ノ性質ナレハナリ是ニ依テ之ヲ觀レハ附託物取戻ノ訴ニ二十年ノ出訴期限ヲ立ツルハ事理ニ反シ
事實ニ戻リ決シテ期限ヲ設クヘキモノニ非ス而シテ亦必スシモ出訴期限ヲ立テサルモ物換リ星移
リテ現物存在セサルニ唯其預リ證文ヲ以テ強テ取戻ヲ訴フルアルモ即チ右第二ノ場合ニ移ルヲ以
テ之ヲ裁スルハ自カラ出訴期限ニ與ルヘケレハ決シテ不都合ヲ生セサルナリ然ル時ハ該公布ハ全
ク過去ノミヲ限リ候儀ト信用致シ候過般各裁判所ヨリ陸續伺出候ニ付右ノ主旨ヲ以テ指令可及ト
存候條一應爲念相候也

乙號 指令 (十年四月十九日)

何之通

壬申七月以前上下一般貸借裁判期限ニ付心得方

(明治六年三月司法省布達第五十號)

壬申第三百號御布告第三條但書ノ儀ハ左之通可心得事

一 壬申七月以前ノ金穀貸借ニテ既ニ同七月以前返濟期限ノ過キタルハ同七月ヨリ五ヶ年ノ内訴

出サレ者ハ不及裁判事

一 壬申七月以前ノ貸借ニテ返濟期限同七月後ニ係リタルハ期限後滿五年ニ至ル迄一度モ訴出サ
ル者ハ不及裁判事

慶應三年十二月晦日以前平民相互ノ貸借裁判ニ及ハ

ス (明治五年十月布告第三百十七號)

平民相互ノ金穀貸借既應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ不及明治元年戊辰正月元
日以後ノ分ハ裁判ニ及候事

慶應三年以前ニ動産不動産ヲ質物ニ取タル分ハ裁判

ス (明治六年一月布告第九號)

昨壬申歲第三百十七號平民相互金穀貸借慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者一切不及裁判旨及
布告候處動産(金銀衣服家什等ノ運搬スヘキ者ヲ云フ)不動産(土地家屋等ノ運搬スヘカラサル
物ヲ云フ)ヲ質物ニ取候分ハ右期日以前ニ係ルト雖モ取上及裁判候條此旨相達候事

無年期ノ貸附金穀裁判期限

(明治六年一月布告第十號)

金穀貸附證文ノ内返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ證書取置後日訴出ツルニ於テハ裁判申渡ヨリ十二ヶ月ノ内濟方可申付事

但從前今後共無年期貸附中内證屢返濟ヲ促スト雖モ滿五年ニ至ル迄一度モ不訴出者ハ裁判ニ不及候尤土地家屋等ノ貸貸ハ不動産ニ屬スル儘ニ付滿五年ヲ過ルト雖モ可及裁判事

華族ノ輩貸借證文及其他ノ契約書ニ本人ノ名印ヲ用ヒシム (明治九年五月布告第七十六號)

華族ノ親金穀貸借證文及ヒ其他ノ契約書ニ家令家扶ノ名ヲ用ヒ何家何局等ノ印ヲ捺セシ慣習有之處自今都テ本人ノ名印ヲ用フヘシ若シ本人ノ名印ナキモノハ其效無之儀ト可相心得此旨布告候事

婦女子一家相續ノ者ニ自印ヲ用シム

婦女子ニテ一家相續致候者ハ公私トモ他日證據ト爲スヘキ者へ自印相用可申事 (明治六年五月布告第百八十四號)

社寺ノ負債ハ氏子檀家ノ連署ヲ要ス

(明治十年五月第四十三號布告)

神社並寺院ニ於テ其ノ社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ請求スル場合ニ

於ケル手数料ニ關スル件 (明治三十一年七月司法省令第十一號)

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ每一件ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ
登記所ニ納ムヘキ手数料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ



私署證書ニ確定日附ヲ附スル事ヲ請求スル手数料

(明治三十一年八月臺灣總督府令第七十五號)

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ請求スル者ハ每一件ニ付キ手数料金十錢ヲ納ムヘシ

確定日附簿及ヒ日附アル印章調製方

(明治三十一年七月司法省令第七號)

印割ヒ及章印ルア附日	號參第		印割ヒ及章印ルア附日	號壹第	
	件名	ノ署名者		件名	ノ署名者
					
					
印割ヒ及章印ルア附日	號四第		印割ヒ及章印ルア附日	號貳第	
	件名	ノ署名者		件名	ノ署名者

一丁

確定日附簿及日附アル印章調製方左ノ通相定ム
 第一條 登記所及ヒ公證人役場ニ備フヘキ確定日附簿及日附アル印章ハ左記離形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 第二條 登記所ニ備フヘキ確定日附簿ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製シ登記所ノ請求ニ因リテ之ヲ渡スヘシ
 第三條 公證人ニ於テ確定日附簿ヲ調製シタルトキハ記入前管轄地方裁判所長ニ差出シ其契印ヲ請フヘシ

確定日附簿

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

印割ヒ及章印ルア附日		號七第		印割ヒ及章印ルア附日		號五第	
		件名	署名者			件名	署名者
印割ヒ及章印ルア附日		號八第		印割ヒ及章印ルア附日		號六第	
		件名	署名者			件名	署名者

日附アル印章雜形

同上 (明治三十一年八月臺灣總督府令第七十四號)
 確定日附簿及日附アル印章調製ハ明治三十一年(七月)司法省令第七號確定日附簿及日附アル印章調製方ニ依ル



外圍徑 一寸
 内圍徑 六分



外圍徑 一寸
 内圍徑 六分

利息制限法 (明治十年九月布告第六十六號)

利息制限法左之通相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ

年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一

割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各制限ニマテ引直サシムヘ

第三條 (明治三十一年六月法律第十一號ヲ以テ民法施行ノ日ヨリ本條ヲ削ル)

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金權利等ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フトキハ債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ價金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

失火ノ責任ニ關スル件 (明治三十二年三月法律第四十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル失火ノ責任ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但シ失火者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

穢多非人等ヲ廢シ平民同様タルヘキ事 (明治四年八月布告)

穢多非人ノ稱被廢候條自今平民同様タルヘキ事

華族ヨリ平民ニ至ル迄婚姻ヲ許ス (明治四年八月布告)

華族ヨリ平民ニ至ル迄互ニ婚姻被差許候條雙方願ニ不及其時時戶長エ可届出事
「但送籍方ノ儀ハ戶籍法第八則ヨリ第十一則迄ニ照準可致事」

華士族平民交互養子取組ノ件 (明治六年一月布告第二十七號)

自今華士族平民互ニ養子取組不苦候事
「但華族ハ管轄廳ヨリ正院ヘ伺出士族ハ管轄廳ニテ開届「平民ハ「戶長」ヘ可届出事

供託法 (明治三十二年二月法律第十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル供託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
供託法

第一條 法令ノ規定ニヨリテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スルモノハ大藏大臣力定メタル書式ニヨリテ供託書ヲ作り供託物ヲ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌日ヨリ支拂請求ノ前月マテ大藏大臣力定メタル利息ヲ拂

フコトヲ要ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキモノノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但シ保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テ供託者ハ利息又ハ配當金ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金銀又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

第六條 倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限り之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第七條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スルモノハ司法大臣カ定メタル書式ニヨリテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第八條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求保管料ヲ請求スルコトヲ得

第九條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ還付ス

第十條 供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依ルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第十一條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十二條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附 則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金銀ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條第八條及第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

供託物取扱規程 (明治三十二年三月大藏省令第六號)

供託物取扱規程左ノ通相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

供託物取扱規程

第一條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス

第二條 此ノ規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合ニ於テ保管スヘキ金銀、有價證券ヲ謂フ

第三條 供託ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ作り之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ニ提出スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名

第二 供託セントスル金額

有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ金額拂込未済ノモノハ券面額ノ左側ニ其ノ拂込済額ヲ記入スルコトヲ要ス

第三 供託ノ原因(事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名)

第四 託供スヘキ法令ノ條項

第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ法律上ノ位置(質權者、抵當權者等特ニ其ノ名稱ヲ記スルコトヲ要ス)及氏名住所官廳ナレハ其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名

第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物

第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其ノ官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其ノ件名及裁判所名

第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ要件ノ具備シタルコトヲ認メタル後供託書ノ一通ニ式ノ如ク受領シ證シ供託者ニ交付スヘシ

第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄託スルコトヲ得但シ供託物カ金銀ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得

第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方

ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書ニ通テ作リテ金庫ヘ提出スヘシ

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラレタル其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ與書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ依ラス直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作り利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償還金ハ代供託物、利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領シ證シ請求者ニ交付スヘシ

前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作り第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ理由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出ス可シ但全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其ノ給付ヲ爲シタル金繰、證

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫營業者ノ作リタル供託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原

由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ事ヲ表示シタル債權者ノ書面

第二 供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其ノ判決ノ正本

第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權

又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ル

ヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキハ

其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ其ノ事由ヲ表示シ

タル書面

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スル

コト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上ノ保證

人ノ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル旨記載シ

タル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由ア

ルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領

證ニ式ノ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ

第十三條 裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第四

條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人ニ交付ス

ヘシ

受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領ヲ證シ供託物拂渡ヲ請求スヘ

シ

第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換ニ供託物ヲ受取人ニ交付スヘ

シ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求裁判所ヘ返還ス

ヘシ

第十五條 供託法第三條ニ規定スル供託金ノ利息ハ其ノ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元

金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

第十六條 供託法第三條ニ依リ利息ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ第八號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ提出

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央

金庫ニ在テハ日本銀行ヘ本支金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店、代理店ヘ之ヲ回付スヘシ

又ハ其ノ支店、日本銀行代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲ

シテ式ノ如ク受領書證セシメ其ノ現金ヲ交付スヘシ

附 則

第十八條 此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル
供託者ハ其ノ金錢證券又ハ物件ノ數量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其ノ他此ノ規程ニ牴觸スルモノハ此ノ
規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式 (川紙寸法美濃判、紙數二枚以上ニ及フトキハ契印スヘシ以下之ニ同シ)

供託書 (金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルヲ要ス)

府縣郡市町村番地

供託者 何 某

(第三者ニ於テ供託ヲ爲ストキ)
ハ供託者第三者ト記入スヘシ)

一金何圓也

又ハ

一何々公債證券額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何

(全額拂込未済ノモノハ其ノ拂込額ヲ左側ニ記入スルコトヲ要ス以下之
ニ同シ)

但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

記號番號枚數記載方前ニ同シ

前ニ同シ

又ハ
一何々
供託ノ原因
供託スヘキ法令ノ條項
供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定
反對給付ノ目的物
官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名
右供託ス

年 月 日

何金庫宛

右
何 某團

(受領書式)

第何號

右受領ス

年 月 日

何 金 庫 宛

(與書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地
受取人 何 某團

何金庫宛

(内渡書式)

内

第二號書式

一金何圓也
 又ハ
 一何々公債證書額面何圓也 何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番迄何枚
 又ハ
 一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也 同 記號番號枚數記載方
 前二同シ
 又ハ
 一何々
 同 前二同シ
 (種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本文高書ノ箇所ニ公債證書其他額面何圓也別紙内譯書ノ通ト記入シ内譯書ト契印スヘシ)
 右金額(又ハ有價證券)何年何月何日内渡済
 何 金 庫 印

請求書 (代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ請求書ヲ作成スルヲ要ス)
 一金何圓也 (所得稅法第三條ノ稅額ヲ控除シ其殘額ヲ記載スルモノトス)
 何々公債證書(又ハ何々銀行株券)(又ハ何會社株券)(何圓何年何月又ハ何期) 渡利息(又ハ配當金)(又ハ何年何月償還金)何年何月何日第何號供託受領證ノ
 前書金額御受取相成度(又ハ別紙委任狀相添)請求候也
 府縣郡市町村番地
 何 某 團

年 月 日 何金庫宛
 府縣郡市町村番地 何 某 團

第三號書式

(受領ノ書式)
 第何號
 右代供託物(又ハ附屬供託物)トシテ受領ス
 年 月 日 何 金 庫 印
 (奥書ノ式)
 前書ノ金額正ニ領收候也
 府縣郡市町村番地
 何 某 團
 (内渡ノ書式)
 表書金額ノ内
 一金何圓也
 右金額何年何月何日内渡済
 (受領證ノ餘白ニ記入シ難キトキハ繼紙ヲナスヘシ)
 何 金 庫 印

利札領收證書
 一利札券面額何圓也 何 枚
 但何年何月何日第何號供託受領證ノ何公債證書又ハ何銀行者クハ何會社債券額面何圓ニ對スル何年又ハ何期渡ノ分
 右領收候也
 年 月 日 何金庫宛
 府縣郡市町村番地 何 某 團
 供託者 何

第四號書式

供託物拂渡請求書 (供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一金何圓也 (幾分ノトキハ請求額ノ上部ニ何年月何日第何號供託受領證ノ内ト肩書スヘシ)

又ハ 何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

一何銀行又ハ何合社株券額面何圓也 同 記號番號枚數記載方

又ハ 前ニ同シ

一何々々 同 前ニ同シ

前書ノ金額(又ハ有價證券)供託者ノ指定ニ依リ又ハ何年法律勅令何省令第何號ニ依リ若クハ裁判ニ依リ(察託者ニ於テ取戻ヲナサントスル場合ハ何々ノ事由ニ依リ云々ト記載スルコト) 拂渡相受度別紙證明書並ニ供託受領證相添請求候也

年 月 日 府縣郡市町村番地

受取人(又ハ供託者) 何 某團

何金庫宛

第五號書式

領收證書 (供託受領證一葉毎ニ領收證書ヲ作成スルコトヲ要ス)

何年月何日第何號供託受領證ノ内

一金何圓也

第六號書式

請求書 (供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

何年月何日第何號受領證

一金何圓也 府縣郡市町村番地

又ハ 何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

一何銀行又ハ何合社株券額面何圓也 同 記號番號枚數記載方

又ハ 前ニ同シ

一何々々 同 前ニ同シ

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日 府縣郡市町村番地

受取人 何 某團

何金庫宛

又ハ
一何々
同 記號番號枚數記載方
前二同シ

内

金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第
何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記號番號枚數記載方
前二同シ

又ハ

一何々

同
前二同シ

府縣都市町村番地

受取人

何

某

右ハ何々ノ事由ニ依リ内譯ノ通拂渡證發行候ニ付分割拂渡スコトヲ要ス依テ別紙
供託受領證相添請求候也

年月日

裁判所名印

官

氏

名印

何金庫宛

第七號書式

拂渡證書

府縣都市町村番地
供託者 何

某

何年何月何日何第號受領證ノ内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第
何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同 記號番號枚數記載方
前二同シ

又ハ

一何々

同
前二同シ

右金額(又ハ有價證券)府縣都市町村番地何某ハ拂渡スコトヲ要ス

年月日

裁判所名印

官

氏

名印

何金庫宛

(奥書ノ書式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

府縣都市町村番地

年月日

受取人

何

某印

何金庫宛

第八號書式

利息請求書		何年何月何日第何號供託受領書ノ金何圓ニ對入ル利息仕拂相成度請求候也	
年 月 日	何金庫宛	受取人	府郡那市町村番地
		何	某 町
(利息記入式)			
一金何圓也	何年何月ヨリ	利息額	
右之通ニ候也	何年何月マテ		
年 月 日		何	金 庫 宛
(現金領收ノ式)			
前書之金額正ニ領收候也		受取人	何
年 月 日		何	某 町
日本銀行本支店			
又ハ其代理店 宛			

臺灣供託規則

(明治三十二年六月律令第十一號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣供託規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス
臺灣供託規則

第一條 民法商法其他法令ノ規定ニ依ル供託ニ付テハ供託法ニ依ル

第二條 供託法中司法大臣ニ付與シタル職權ハ臺灣總督之ヲ行フ

第三條 此規則ハ明治三十二年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 臺灣總督ハ當分ノ内其指定シタル供託所ヲ以テ供託法ニ定メタル倉庫營業者ニ代フルニ
トヲ得

競 賣 法

(明治三十一年六月法律第十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 通則

第一條 競賣ノ申込ハ他ノ高價競賣ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣ヲ終了シタル
トキハ當然其效力ヲ失フ

第二條 競賣人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス
競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス
競賣人ハ留置權者、競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其實權者ニ對シテ優先權ヲ有ス
ル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣

第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ
爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 競買ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ルコトヲ得ス
債權者ノ委任ニ因リテ競買ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 競買ハ競買ニ付スヘキ物ノ所在地ニ於テ之ヲ爲ス但其地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競買ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 競買ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
公告ハ競買ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競買地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競買委任者ノ氏名、住所

二 競買ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質

三 競買ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件

四 競買ノ場所及ヒ年月日時

五 競買ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所

委任者カ競買ノ條件ヲ定メサリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條 競買ノ場所及ヒ日時ハ競買ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ

要ス但通知ヲ受ケヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第九條 公告ト競買トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競買ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競買ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第十條 高價品ノ競買ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競買スルコトヲ得ス
取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競買スルコトヲ得ス

第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競買スル場合ニ於テ競買ノ日ニ相當ナル競買ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル物ニ付テハ競買ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競買ハ其條件ヲ告知シ各競買物ニ付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス

競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

第十四條 執達吏ハ競買調書ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印スヘシ

一 競買委任者ノ氏名、住所

二 競買ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質

三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額

四 競買ノ場所及ヒ日時

五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由

六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セサリシトキハ其事由

- 七 告知シタル競買ノ條件
- 八 各競買物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額
- 九 競買ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由
- 十 競買ノ開始及ヒ完結ノ日時
- 十一 競買調査ヲ作リタル場所及ヒ年月日

競買調査ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名、捺印セシメ且競買ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證スル書面及ヒ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

第十五條 執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競買調査ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

ハ遅滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第十六條 執達吏ハ競買ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競買調査ニ添附スヘシ

第十七條 競買ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競買ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競買ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アレトキハ此限ニ在ラス

第十九條 第三者カ競買ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競

買ヲ停止スルコトヲ要ス

物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ遅滞ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アレトキハ執達吏ハ競買ヲ履行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ競買ヲ停止シタル場合ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競買ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス此場合ニ於ケル競買手續及ヒ保管ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第二十一條 競買ノ委任ハ競落ノ告知アルマテ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル競買手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第三章 不動産ノ競買

第二十二條 不動産ノ競買ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競買ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス

民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競買ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス

第二十三條 申立人ハ競落期日マテハ最高價競買申込人ノ同意アル場合ニ限り其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 競買ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
- 二 競買ニ付スヘキ不動産ノ表示
- 三 競買ノ原因タル事由
- 四 年月日

五 裁判所

申立書ニハ競買ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第二十五條 競買手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ氏名住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ

民事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用ス

第二十六條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競買ノ申立アリタルコトヲ競買ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ

民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競買期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

競買ノ期日ハ競買手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 申立人
- 二 債務者及ヒ所有者

三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競買ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ爲サンメ其評價額ヲ以テ最低競買價額トスヘシ

第二十九條 競買期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競買ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三十條 競買期日、其開始、競買調査及ヒ競買終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十八條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競買ニ之ヲ準用ス

第三十一條 競買期日ニ相當ノ競買申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競買ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競買期日、競買ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競買ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競買ニ之ヲ準用ス

第三十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ

裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

第三十四條 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合

ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ

爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

第四章 船舶ノ競賣

第三十六條 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス

第三十七條 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第五章 増價競賣

第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ増價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ

爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス

第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者ノ氏名
- 二 抵當不動産ノ表示
- 三 第三取得者及讓渡人ノ氏名、住所
- 四 擔保ノ表示
- 五 第三取得者カ提供シタル金額
- 七 年月日
- 八 裁判所

申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス

第四十二條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出タスヘシ

擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ

民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ
決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號、第六號及第七號ニ
掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第二十五條第二項、第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス
第四十五條 第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ增價競賣ニ之ヲ準用ス
左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 競賣請求者
- 二 債務者

三 第三取得者及ヒ讓渡人

四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第四十六條 競賣ノ公告ニハ增價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル增價金
額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲
ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七
十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競賣及ヒ競落ノ
手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタル增價金額ニ達スル競賣ノ申込ナキトキハ請求債權
者ヲ以テ競落人トス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高競買人カ其競買ヲ取消シタルトキ裁判所ハ更ニ競
賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條 增價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ因リテ其效力ヲ失フ

第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民
事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

附 則

第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 明治二十三年法律第九十二號增價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

不動產登記法

(明治三十二年二月法律第二十四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル不動産登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

不動産登記法

第一章 總 則

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消
滅ニ付キ之ヲ爲ス

一 所有權

二 地上權

三 永小作權

四 地役權

五 先取特權

六 質權

七 抵押權

八 貸借權

第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
 - 二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ
- 右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同

第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記ノ闕缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條 他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ闕缺ヲ主張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條 同一ノ不動産ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ別段ノ定ナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル

登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依ル

第七條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前後ニ依ル
假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

第二章 登記所及ヒ登記官吏

第八條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定ス

第九條 町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其區畫ニ關スル登記簿及ヒ其附屬書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス

一箇又ハ數箇ノ不動産ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノ謄本ニハ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ其不動産ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條 登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 登記所ハ土地ニ付キ所有權ノ移轉又ハ質權ノ設定、移轉若クハ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ土地登記所管廳ニ通知スルコトヲ要ス未登記ノ土地ニ付キ所有權ノ登記

ヲ爲シタルトキ亦同シ

土地臺帳所管轄ハ土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字、番號ノ變更アリタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第十二條 登記官吏ハ自己、其妻又ハ四親等内ノ親族カ申請人ナルトキハ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者ニシテ且登記官吏ノ妻又ハ四親等内ノ親族ニ非サル者二人以上ノ立會アルニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス但親族ニ付テハ親族關係力止ミタル後亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第十三條 登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害力登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

第三章 登記ニ關スル帳簿

第十四條 登記簿ハ土地登記簿及ヒ建物登記簿ノ二種トス

各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町村毎ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第十五條 登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備フ

同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動産カ登記簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨カルトキハ其一箇ノ區畫ノ登記簿ニシテ其不動産ニ關スル用紙ヲ備フ

第十六條 土地登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各土地ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ土地ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及ヒ此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ貸借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十七條 建物登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及ヒ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ貸借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十八條 登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シ且每葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各自見出帳ヲ設ク

第二十條 登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス
申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十一條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 登記簿及ヒ其附屬書類ハ事務變テ避ケル爲メニスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十条第二項ニ掲ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 登記簿ノ全部又ハ一部力滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ三ヶ月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十四條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章 登記手續

第一節 通則

第二十五條 登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アリ

ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 登記ハ登記権利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記権利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條 官廳又ハ公署ノ公費處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ權利者ノ請求ニ因リ其官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十條 官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記権利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條 官廳力不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ其官廳ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

官廳力取得シタル不動産ニ關スル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ニ付キ爲スヘキ登記ハ官廳力登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ、登記義務者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス但官廳力登記權利者ナルトキハ登記義務者ノ承諾書ヲモ添附スルコトヲ要ス

官廳カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ消滅ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條 假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 假登記ハ假登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得

第三十四條 豫告登記ハ第三條ニ掲ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添付シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十五條 登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

- 一 申請書
- 二 登記原因ヲ證スル書面
- 三 登記義務者ノ權利ニ關スル登記簿謄本
- 四 登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面
- 五 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

- 一 不動産所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號
- 二 地目及ヒ段別又ハ坪數
- 三 申請人ノ氏名、住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所
- 四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名、住所
- 五 登記原因及ヒ其日附
- 六 登記ノ目的
- 七 登記所ノ表示
- 八 年月日

第三十七條 登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十八條 登記原因ニ買戻ノ特約其他登記ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ定アルトキハ申請書ニ其持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書

ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス
第四十一條 登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スル足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條 申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スル足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十三條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スル足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十四條 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證カ滅失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面ニ通テ添附スルコトヲ要ス

第四十五條 申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數個ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限り同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的申請人ノ氏名受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但同一ノ不動産ニ關シテ同時ニ數個ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ之ヲ申請人ニ交付スルコトヲ要ス

第四十八條 登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 登記官吏ハ左ノ場合ニ限り理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

一 事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セザルトキ

二 事件カ登記スヘキモノニ非ザルトキ

三 當事者カ出頭セザルトキ

四 申請書カ方式ニ適合セザルトキ

五 申請書ニ掲ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト牴觸スルトキ

六 第四十二條ニ掲ケタル書面ヲ提出シタル場合ヲ除ク外申請書ニ掲ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セザルトキ

七 申請書ニ掲ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セザルトキ

八 申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添附セザルトキ

九 登録稅ヲ納付セザルトキ

第五十條 表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

事項欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登記スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第五十一條

登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登記義務者ノ氏名、住所ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要スル場合ニ於テ登記義務者カ多數ナルトキ亦同シ

第五十二條

表示欄ニ登記ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條

附記ニ依ル登記ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登記ノ番號ヲ用井其番號ノ左側ニ附記何號ト記載スルコトヲ要ス

第五十四條

假登記ハ登記用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其左側ニ餘白ヲ存スルコトヲ要ス

第五十五條

假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ノ餘白ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條

權利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限り附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス

第五十七條

權利ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ變更シタル登記事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十八條

登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第五十九條

行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第六十條

登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號、申請書受附年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ還付スルコトヲ要ス

第六十一條

申請書ニ添附シタル登記簿又ハ第四十四條ニ掲ケタル書面ノ一通ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但登記名義人カ多數ナル場合ニ於テ其一部カ登記義務者ナルトキハ登記義務者ノ氏名住所ヲモ記載スルコトヲ要ス

第六十二條

前項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十三條

官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記簿ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十四條

登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條

第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條

抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條 登記回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ回復スルトキハ回復ノ登記ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登記ト同一ノ登記ヲ爲シ若シ或登記事項ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十七條 第九條第二項ノ場合ニ於テ乙登記所ハ移送ヲ受ケタル登記簿ノ謄本ニ依リ相當登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移スコトキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ登記簿ノ謄本ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十八條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ一箇又ハ數箇ノ不動産ノ所在地カ甲登記區畫ヨリ乙登記區畫ニ轉屬シタルトキハ登記所ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ其不動産ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第六十九條 第二十三條ノ場合ニ於テハ登記權利者ノミニテ登記ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

第七十條 前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ前登記ノ順位番號、申請書受附ノ年月日、受附番號ヲ記載シ前登記ノ登記簿ヲ添付スルコトヲ要ス

第七十一條 第六十九條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スコトキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ相當區順

位番號欄ニ前登記ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前登記ノ申請受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條 第二十三條ノ規定ニ依リテ定メタル期間中新登記ノ申請アリタルトキハ假設登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ假設登記簿ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十三條 假設登記簿ニ爲シタル登記ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ定メタル期間満了ノ後遲滞ナク之ヲ登記簿ニ移スコトヲ要ス此場合ニ於テハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ假設登記簿ニ於ケル登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十七條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ其不動産ニ關スル假設登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第七十四條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於テ回復シタル登記アルトキハ新登記ノ順位番號欄ニハ回復シタル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條 假設登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ當事者ニ對シ之ニ本登記簿ヲ提出スルコトキ旨ヲ通知シ若シ回復シタル登記ト假設登記簿ヨリ移シタル登記ト紙幣スルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

當事者カ登記簿ヲ申請スル場合ニ於テハ假設登記簿ニ於ケル登記ノ登記簿ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ申請アリタルトキハ第六十條ノ規定ヲ準用ス

第八十四條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル得合ニ於テ乙地ノミカ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十三條 前條第一項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十二條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ分筆ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄外ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十九條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字若クハ番號ノ變更アリタルトキハ其土地ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十八條 所有權ノ一部移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ハ其部分ノ表示ヲ爲シ若シ登記原因ニ民法第二百五十六條第一項但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十七條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス金錢其他ノ物ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ルコトヲ要ス

第七十六條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新川紙中登記番號欄ニ前用紙ノ登記番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續川紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條 前用紙中表題部又ハ他ノ區ニ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新川紙中登記番號欄ニ前用紙ノ登記番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續川紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十三條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十二條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十七條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白アルトキハ表題部又ハ其區ニ登記スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十五條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ登記カ合併シタル部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ合併シタル部分ノミカ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十六條 第二項、第八十三條第二項、第三項及ヒ前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 甲地ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合筆ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ甲地ノ表示、其番號及

ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第八十七條 前條ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ登記カ甲地タリシ部分ノミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ甲地タリシ部分ノミカ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十三條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條 土地ノ段別又ハ坪數ノ増減ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ増減ノ原因ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ抹消スルコトヲ要ス

第八十九條 地目、字又ハ土地ノ番號ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第九十條 土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目、字若クハ番號變更ノ登記ノ申請書ヲ受附タル時ニ於テ未タ土地臺帳所管廳ヨリ此等ノ事項ニ關スル通知ヲ受ケサルトキ又ハ其申請書ニ記載シタル登記ノ目的土地臺帳所管廳ノ通知ト符合セサルトキハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス但登記ノ目的カ申請書ニ添附シタル土地臺帳謄本ト符合スルトキハ此限ニ在ラス

第九十一條 建物ノ分合、其番號若クハ構造ノ變更、其滅失、其建坪ノ増減又ハ附屬建物ノ新築アリタルトキハ其建物ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス
建物ノ敷地ノ地目、字若クハ番號又ハ段別若クハ坪數ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九十二條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ分合シタル建坪、新番號若クハ新構造又ハ滅失、増減若クハ新築シタル建坪並ニ現在ノ建坪ヲ記載シ又ハ敷地ノ新地目、新字若クハ新番號又ハ増減シタル段別若クハ坪數並ニ現在ノ段別若クハ坪數ヲ記載シ且建物ノ分合、構造ノ變更又ハ建坪ノ増減ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十三條 建物ノ分合、其構造ノ變更、其滅失又ハ其建坪ノ減少ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其建物ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割又ハ區分ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十五條 甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割シテ之ヲ乙建物ノ附屬建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ乙建物ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十六條 第八十三條及ヒ第八十四條ノ規定ハ第九十四條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十三條ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ分割又ハ區分ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十七條 第八十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ第九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十五條第二項乃至第四項ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名住所及ヒ合併ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十八條 甲建物ヲ乙建物又ハ其附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テハ第八十六條及ヒ第八十七條ノ規定ヲ準用ス但甲建物ヲ乙建物ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テハ乙建物ノ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要セス

第九十九條 第八十八條ノ規定ハ建物又ハ附屬建物ノ建坪ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス附屬建物ノ新築ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ附屬建物ノ種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百條 第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更又ハ建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ建物ノ敷地ノ地目、字若クハ番號ノ變更又ハ段別若クハ坪數ノ増減ノ登記ニ之ヲ準用ス

第一百一條 不動産ノ滅失ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ滅失ノ原因ヲ記載シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二百二條 前條ノ場合ニ於テ滅失シタル不動産カ他ノ不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ滅失シタル不動産ノ表示ヲ爲シ滅失ノ原因及ヒ其不動産ノ滅失シタルコトヲ登記シ其不動産ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中滅失シタル不動産ノ表示ヲ抹スルコトヲ要ス
他ノ不動産ノ所在地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク前項ノ登記ヲ其登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク第一項ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三條 土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタル場合ニ於テ舊所有者カ買戻權ヲ有スル旨ヲ記載シ補償金ノ受取證又ハ預證ヲ添附スルコトヲ要ス
官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳又ハ公署ハ遲滞ナク前項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二百四條 不動産ヲ華族世襲財産ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當該官廳遲滞ナク世襲財産ノ創設ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二百五條 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
一 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者
二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第二百六條 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一 建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者
二 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

三 既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者
四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第二百七條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ第二百五條第何號又ハ前條第何號ニ依リテ登記ヲ申請スル旨ヲ記載シ必要ナル説明書類ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス但登記原因及ヒ其日附ヲ記載シ又ハ第三十五條第二號乃至第四號ニ掲ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第二百八條 未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス
第二百九條 第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ規定ハ未登記ノ不動産所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ第二百五條又ハ第六條ノ規定ニ依リテ證明ヲ爲スコトヲ要セス
第三節 所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續

第三百十一條 地上權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ地上權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、地代又ハ其支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十二條 永小作權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ小作料ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、小作料ノ支拂時期其他永小作人ノ權利若クハ義務ニ關スル特約又ハ民法第二百七十二條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十三條 地役權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ要役地ノ表示ヲ爲シ地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ民法第二百八十一條第一項但書、第二百八十五條第一項但書又ハ第二百八十六條ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十四條 地役權ノ設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ要役地タル不動産ノ登記川紙中相當區事項欄ニ承役地タル不動産ノ表示ヲ爲シ其不動産カ地役權ノ目的タル旨、地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載スルコトヲ要ス

第十五條 要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク其登記所ニ承役地、要役地、地役權設定ノ目的及ヒ範圍及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スルコトヲ要ス
前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク要役地タル不動産ノ登記川紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス但不動産工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其工事費用ノ豫算額ヲ記載スルコトヲ要ス

第十七條 質權ノ設定又ハ轉賣ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ續期間若クハ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、違約金若クハ賠償額ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ、民法第三百四十六條但書ノ定アルトキ、第三百五十六條若クハ第三百五十七條ノ規定ニ異ナリタル定アルトキ又ハ第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其權利ノ目的カ所有權以外ノ權利ナルトキハ申請書ニ其權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス
質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權又ハ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スルコトヲ要ス

第二十一條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十二條 官吏又ハ公吏ノ身元保證ヲ目的トスル抵當權ノ設定ノ登記ハ囑託書ニ其官吏又ハ公吏カ差出シタル登記請求書ヲ添附シテ當該官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二十三條 數箇ノ不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ各不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ

申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス
第二百二十四條 第二百二十二條ノ規定ニ從ヒテ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ其一箇ノ不動産ニ關

スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ他ノ不動産ニ關スル權
利ノ表示ヲ爲シ其權利カ共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス
第二百二十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百二十六條 數箇ノ不動産ニ關スル權利カ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其
一箇ノ不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲
シタルトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ノ表示ヲ爲シ且其權利ノ變更又ハ
消滅シタル旨ヲ登記シ第二百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記中變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ
朱抹スルコトヲ要ス其一箇ノ不動産ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同
シ

第二百二十七條 貸借權設定又ハ質借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借貸ヲ記載
シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ借貸ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ貸借權ノ移轉若クハ質借物
ノ轉貸ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ貸借權ヲ爲ス者カ處分ノ能力若クハ權限ヲ有セサル者ナル
トキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百二十八條 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己
ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百二十九條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ
記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ且甲區事項欄ニ所有者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命
スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十條 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁
判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百三十一條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ
記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ爲シ甲區事項欄ニ何權利ヲ目的トスル何權利ノ登記ヲ命スル裁
判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ且所有權以外ノ權利ヲ登記スヘキ相當區事項欄ニ權
利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコ
トヲ要ス

第二百三十二條 既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記
ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二百三十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中所有權以外ノ權利ヲ
登記スヘキ相當區事項欄ニ權利者ノ氏名、住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ何權利
ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十四條 前四條ノ規定ハ所有權以外ノ權利又ハ其權利ヲ目的トスル權利ノ變更又ハ處分ノ
制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二百三十五條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ其權利ヲ目的トス

ル權利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ
關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證スルコトヲ要セス
第三百三十六條 建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スルトキハ
申請書ニ設計書ニ定メタル其建物ノ種類、構造、建坪、建物ヲ新築スヘキ郡、市、區、町村、
字、土地ノ番號及ヒ工事費用ノ豫算額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載
シ設計書及ヒ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三百三十七條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ
記載シ表示欄ニ新築スヘキ建物ノ表示ヲ爲シ且其建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨
ヲ記載シ甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲ス
ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十八條 既登記ノ主タル建物ノ附屬建物ヲ新築スル場合ニ於テ不動産工事ノ先取特權ノ保
存ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ新築スヘキ附屬建物ノ表示ヲ爲シ且其
建物ノ種類、構造及ヒ建坪ハ設計書ニ依ル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十九條 建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ
其建物ノ建築カ終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滞ナク所有權ノ登記ヲ申請スルコトヲ要
ス但第三百六條及ヒ第七條ノ適用ヲ妨ケス

附屬建物ヲ新築スルニ付キ不動産工事ノ先取特權ノ保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其建物ノ
建築カ終ハリタルトキハ其建物ノ所有者ハ遲滞ナク新築ノ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
第四百十條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ更ニ建物ノ表

示ヲ爲シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ抹スルコトヲ要ス但前條第一項ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス場
合ニ於テハ不動産工事ノ先取特權ノ保存ニ關シテ甲區事項欄ニ爲シタル登記ヲモ抹スルコト
ヲ要ス

第四節 抹消ニ關スル登記手續

第四百十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其死亡ヲ證
スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキハ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スル
コトヲ得

第四百十二條 登記權利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登記ノ抹消ヲ申請スル
コト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其謄本ヲ添附シ登記權利者ノミニテ登記ノ
抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書及ヒ債權並ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シ
タルトキハ登記權利者ノミニテ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコト
ヲ得

第四百十三條 華族世襲財産ノ解除ヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク華族世襲財産ノ創設
ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百十四條 假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ
登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十五條 第三條ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若クハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言
渡シタル裁判力確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ
目的ニ付キ和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若クハ抄本又ハ訴
ノ取下、請求ノ拋棄若クハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登記ノ抹消ヲ登記所
ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百四十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者
アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
第四百四十七條 登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スヘキ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙
中相當區事項欄ニ其第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス
旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四百四十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託
アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特
權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス
第四百四十九條 第三百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ囑託アリタル
場合ニ於テ其不動産ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記
ヲ抹消スルコトヲ要ス但其不動産ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ在ラス

第五章 抗 告

第五百五十條 登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十一條 抗告ハ登記所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第五百五十二條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其證據トナスコトヲ得ス

第五百五十三條 登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日内ニ意見ヲ附シテ事件ヲ抗告裁判所
ニ送附スルコトヲ要ス

登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルト
キハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲
スコトヲ要ス

第五百五十四條 抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第五百五十五條 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命
スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送達スルコトヲ要ス

第五百五十六條 抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第五百五十七條 登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ爲シタル裁判所、
命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ
要ス

第五百五十八條 抗告裁判所ノ規定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ

第五百五十四條乃至第五百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス
限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

附 則

第六十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十二年四月勅令第三百三十四號ハ本法施行ノ期日ヲ同年六月十六日ト定メタリ)

第六十一條 明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ書記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六十二條 明治六年第十八號布告地所買入書入規則又ハ同八年第四百十八號布告建物書入買入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年內ニ直權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第六十三條 本法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項移シタル番號及ヒ事項ヲ抹スルコトヲ要ス

第六十四條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

不動産登記法施行細則 (明治三十二年五月司法省令第十一號)

不動産登記法施行細則左ノ通相定ム
不動産登記法施行細則

第一章 登記ニ關スル帳簿

第一條 土地登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ建物登記簿ハ附錄第二號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 共同人名簿ハ土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿ノ二種トス
共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第三條 土地共同人名簿ハ附錄第三號雜形ニ依リ建物共同人名簿ハ附錄第四號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 登記簿及ヒ共同人名簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ交付スヘシ
登記所ハ翌年中ニ必要ナル帳簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ毎年十一月中ニ請求ヲ爲スヘシ

但區畫裁列所出張所ノ帳簿ハ管轄區畫裁列所ヨリ之ヲ請求スヘシ

第五條 登記簿及ヒ共同人名簿ノ用紙ニハ豫メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條 土地登記見出帳ハ附錄第五號雜形ニ依リ土地分合登記見出帳ハ附錄第六號雜形ニ依リ建物登記見出帳ハ附錄第七號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

- 第七條 土地登記見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐ヒ豫メ各筆ノ見出欄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ
- 第八條 土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ土地ノ分合ニ關スル登記ヲ爲ス毎ニ其土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部十百千ノ數ヲ冠スルモノニ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ但土地ノ合併ニ因リ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ
- 第九條 建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ數地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ數地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲモ記入スヘシ但數地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ
- 第十條 登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ朱抹スヘシ
- 第十一條 受附帳ハ附錄第八號雜形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ
- 第十二條 受附番號ハ一ノ年毎ニ更新スヘシ
- 第十三條 受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル
- 第十四條 登記所ニハ登記簿共同人名簿見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ
 - 一 謄本抄本交付帳
 - 二 申請書囑託書附屬書類送達帳

- 三 圖面綴込帳
- 四 受領證原符元帳
- 五 各種通知簿
- 六 登記立合調書綴込帳
- 七 決定原本綴込帳
- 八 登記簿謄本綴込帳
- 九 土地謄帳謄本
- 十 土地異動通知書綴込帳
- 十一 土地登記簿通知簿
- 十二 抗告書類送達帳
- 十三 本登記簿送交付帳
- 十四 印鑑簿
- 第十五條 申請書囑託書並ニ附屬書類ハ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴スヘシ
- 第十六條 圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ
- 第十七條 不動産登記法第四十四條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面二通ノ内一通ハ登記所ニ之ヲ保存スヘシ
- 第十八條 第十四條第五號ノ通知簿ニハ不動産登記法第六十一條、第六十三條、第七十五條第一項、第百十四條第二項、第百二十六條第二項及ヒ本令第六十九條ノ通知事項ヲ記入シ通知書ト

契印スヘシ

第十九條 不動産登記法第十一條第二項ノ規定ニ依リ土地審判所管轄ヨリ受ケタル通知書ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第二十條 事變ヲ避クル爲メ登記簿又ハ其附屬書類ヲ登記所外ニ持出シタルトキハ登記官吏ハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十一條 裁判所又ハ豫審判事ヨリ申請書其他ノ附屬書類ヲ送付スヘキ命令又ハ囑託アリタルトキハ登記官吏ハ其關係アル部分ニ限り之ヲ送付スヘシ

第二十二條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク其事由、年月日、滅失セシ登記簿ノ冊數其他不動産登記法第二十三條ノ告示ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ且同復登記期間ヲ豫定シ地方裁判所長ニ申報スヘシ但區裁判所出張所ノ申報ハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

地方裁判所長カ前項ノ申報ヲ受ケタル日ハ相當ノ調査ヲ爲シタル後司法大臣ニ具申ヲ爲スヘシ

第二十三條 登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ詳細其狀況ヲ取調ヘ且處分方法ヲ具シ前條ノ例ニ準シ申報又ハ具申ヲ爲スヘシ

第二十四條 登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ目錄ヲ作り地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ但區裁判所出張所カ認可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

第二十五條 不動産ノ所有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町、村長（市、區、町、村長ナキ地ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員）ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ

不動産ヲ所有スル法人又ハ外國會社ノ代表者ハ法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第二十六條 印鑑ハ附錄第九號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十七條 印鑑調製ノ様式及ヒ貼附ノ方法等ハ地方裁判所長之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十五條ノ規定ハ官廳及ヒ公署ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 土地所在ノ郡、市、區、町、村、字及ヒ土地ノ番號

二 手数料ノ金額

三 登記所ノ表示

四 年月日

第三十一條 土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十二條 前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ建物登記簿若クハ附屬書ノ閲覧ノ請求ニ之ヲ適用ス但建物ノ番號アルトキハ申請書ニ其番號ヲモ記載スヘシ

第三十三條 不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十四條 登記官吏カ第二十九條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ請求ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十五條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ適用ス但抄本用紙ハ美濃紙ヲ用ユヘシ

第三十六條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スルトキハ謄本抄本交付帳ニ謄本又ハ抄本ノ區別、交付ノ年月日及ヒ申請人ノ氏名ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ登記簿ノ謄本ヲ他ノ登記所ニ移送スル場合ニ之ヲ適用ス

第三十七條 登記簿又ハ附屬書類ノ閲覧ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第二章 登記申請ノ手續

第三十八條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登録税額ヲ記載スヘシ但登録税法第二條第一項第一號乃至第十七號ノ登記ニ付テハ課税標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

第三十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但登記権利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ノ契印ヲ以テ足ル

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十一條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル管轄登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ

第四十二條 不動産登記法第二百二十八條又ハ第三百三十條ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不動産カ建物ナルトキハ申請書ニ圖面ヲ添付スヘシ

第四十三條 建物ノ圖面ニハ不動産登記法第三十六條第一號、第二號並ニ第三十七條ニ掲ケタル事項及ヒ敷地ノ方位並ニ建物ノ形状、間尺、位置ヲ記載シテ申請人署名捺印スヘシ

圖面ハ總テ墨引、墨字ト爲シ若シ登記ノ目的外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引、朱字ト爲スヘシ

圖面ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十四條 登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登録税法第二條第一項第十號及ヒ第十二號乃至第十六號ノ規定ニ依リ登録税ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ不動産ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録税ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登録税ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應ジ登録税ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添付スヘシ

第四十五條 不動産登記法第四十四條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記済證カ滅失シタル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 不動産登記法第四十四條ニ掲ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ

- 一 登記ヲ受クヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的
- 二 登記義務者ノ人違ナキコト
- 三 保證人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號
- 四 保證人ノ住所年齢
- 五 年月日

第三章 登記手續

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査スヘシ

第四十八條 登記番號ハ不動産登記法施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第四十九條 表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及ヒ表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及ヒ事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第五十條 登記ノ申請書ニ圖面ヲ添付シタル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末

尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ

第五十一條 申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十二條 不動産登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條 不動産登記法第五十一條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記権利者又ハ登記義務者ノ全員ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第五十四條 共同人名簿ニ登記権利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シタルトキハ氏名、住所欄及ヒ持分欄ニ於ケル縦線ヲ番號欄及ヒ豫備欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交叉スヘシ

第五十五條 共同人名簿ニ記載シタル登記権利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若クハ變更ニ付キ登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱捺スヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ綴綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記権利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミニ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏

捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

第二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十八條 登記シタル權利ノ順位ヲ渡讓シ又ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其權利ノ登記ノ順位番號ノ左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十九條 附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記ノ順位番號ノ左側ニ附記番號ヲ記載スヘシ

第六十條 登記簿ノ全部又ハ一部ヲ滅失シタルニ因リ登記回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前登記ノ登記簿ニ不動產登記法第六十條第一項ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ

第六十一條 土地發帳所管轄ヨリ土地ノ異動ニ關スル通知アリタル場合ニ於テ其土地カ既登記ナルトキハ見出帳中相當欄ニ其通知書ヲ編綴セル土地異動通知書綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記入シ其土地カ未登記ナルトキハ土地發帳簿本ノ別冊ニ其土地ニ關スル事項ヲ記載シ備考欄ニ土地發帳簿本原簿第何冊第何丁第何行ヨリ移シタル旨ヲ記入シ土地發帳簿本原簿ノ備考欄ニハ別冊第何冊第何丁第何行ニ移シタル旨ヲ記入スヘシ

異動ノ通知ヲ受ケタル既登記ノ土地ニ付キ其異動ニ關シ變更登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中其異動ニ關シ土地異動通知書ノ冊數、丁數欄ニ爲シタル記入ヲ朱抹スヘシ

第六十二條 不動產カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定ニ因リ登記ヲ爲シ

タルトキハ登記所ハ速ニ其旨ヲ他ノ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出帳中備考欄ニ其通知事項ヲ記入スヘシ

第六十三條 地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滞ナク其登記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク要役地タル不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第六十四條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ

不動產ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹スヘシ

第六十五條 不動產登記法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ受領證ヲ交付スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十六條 不動產登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記簿ニ交付スルトキ之ヲ還納セシムヘシ

還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ

第六十七條 不動產登記法第十二條第二項ノ調査ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請人ノ氏名、住所
- 二 申請人カ登記官吏ナルコト又ハ登記官吏ノ妻若クハ登記官吏ノ四親等内ノ親族ナルコト
- 三 登記ヲ爲スヘキ不動產ノ表示及ヒ登記ノ目的
- 四 申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號

五 立會人ノ氏名、住所及ヒ年齢

六 立會人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號

第六十八條 不動産登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在ノ郡、市、町村、字、土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數、申請書受附ノ年月日、登記目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記入スヘシ
前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ但地租毎納期終盡ノ前十日内ハ其都度通知ヲ爲スヘシ

第六十九條 登記官吏カ不動産登記法第二百二十九條、第三百一十一條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記済ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ但第三百一十一條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ所有權以外ノ權利者ニモ其通知ヲ爲スヘシ

第七十條 不動産登記法第六十一條、第六十三條、第七十五條第一項及ヒ前條ノ通知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十一條 不動産登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ管轄ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ變更スヘシ
同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ヲ變更スヘシ

附 則

第七十二條 不動産登記法第六十三條ノ規定ニ依リ舊登記簿ヨリ登記ヲ移シタルトキハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ

登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登記簿表題部取消欄ニ新登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、新登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第七十三條 不動産登記法第六十三條ノ登記ヲ爲ササル不動産ニ付キ其滅失ノ登記ノ申請アリタルトキハ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スヘシ

第七十四條 受附番號ハ明治三十二年分ニ限り六月十六日ヨリ之ヲ更新シ十二月三十一日ニ止ムヘシ

第七十五條 舊登記簿ノ謄本ハ舊謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第七十六條 明治二十六年(三月)司法省令第三號ニ依リ既ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ更ニ之ヲ提出スルコトヲ要セス

甲		第 號	登 記 番 號
事 項 欄		(示表地土) 部 題 表	表 示 番 號
番 順 號 位	事 項 欄		表 示 番 號
番 順 號 位	事 項 欄		表 示 番 號
番 順 號 位	事 項 欄		表 示 番 號
番 順 號 位	事 項 欄		表 示 番 號

土 地 登 記 簿

丁

紙 數 表 紙 7 除 キ 枚	附 錄 第 一 號
地 方 裁 判 所 長	土 地 登 記 簿
	區 裁 判 所

(權借貸) 區 戊		(權借及質料先) 區 乙	土地登記簿	區	
番順號位		番順號位			
事項欄		番順號位			
番順號位		番順號位			
事項欄		番順號位			
番順號位		番順號位			
事項欄		番順號位			

丁		(權設地) 區 丙	土地登記簿	(權小三權地) 區 乙	(權有所) 區
番順號位		番順號位			番順號位
事項欄		番順號位		番順號位	
番順號位		番順號位		番順號位	
事項欄		番順號位		番順號位	
番順號位		番順號位		番順號位	
事項欄		番順號位		番順號位	

		第 號	登 記 號
甲		(示表物建) 部 題 · 表	
	番 順 號 位	建 物 登 記 簿	番 表 示 號
	事 項 欄		表 示 欄
	番 順 號 位		番 表 示 號
	事 項 欄		表 示 欄
	番 順 號 位		番 表 示 號
	事 項 欄	丁	表 示 欄

	紙 數 表 紙 除 去 枚	附 錄 第 二 號
地 方 裁 判 所 長		建 物 登 記 簿
		區 裁 判 所

(權租賃) 區 丁		(權抵及買特先 當七權權取)	建 物 登 記 簿	區
番順 號位				
事 項 欄				
番順 號位				
事 項 欄				
番順 號位				
事 項 欄				

丙		建 物 登 記 簿	(權役地) 區 乙	(權有所) 區
番順 號位			番順 號位	
事 項 欄			事 項 欄	
番順 號位			番順 號位	
事 項 欄		事 項 欄		
番順 號位		番順 號位		
事 項 欄		事 項 欄		

										番號											番號	
										申請人ノ氏名、住所											申請人ノ氏名、住所	持分
											土地共同人名簿											
										持分											豫備	
										丁										備		

		附錄第三號	
		土地共同人名簿	
		區裁判所	
紙數表紙ヲ除キ			
枚			
地方裁判所長			

番號	申請人ノ氏名、住所	持分	豫備
	建物共同人名簿		丁

附錄第四號

建物共同人名簿

區裁判所

紙数表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

部										
										番地 號ノ
										符地 號ノ
										番建 號物ノ
										ノ登 冊記簿
										ノ登 丁記簿
										番登 號記
										備
										考

丁

附錄第七號

建物登記見出帳

區 裁 判 所

部										
										番地 號ノ
										符地 號ノ
										ノ登 冊記簿
										ノ登 丁記簿
										番登 號記
										番地 冊異動 通知
										備
										考

丁

受附日ノ	受附日ノ						受附日ノ
番	番						番
號附	號附						號附
目登	目登						目登
的記ノ	的記ノ						的記ノ
ノ申	ノ申						ノ申
氏請	氏請						氏請
名人	名人						名人
備	備						備
考	考						考

附 錄 第 八 號

不 動 產 登 記 受 附 帳

區 裁 判 所

部	
	番地ノ
	符地ノ
	番建物ノ
	ノ登記簿
	ノ登記簿
	番登記
	號記
	備
	考

附錄第九 (用紙厚紙五寸横一寸)

印 鑑	郡市町村番地
氏 名	

(注意) 法人ノ代表者ナルトキハ氏名ノ肩ニ事務所又ハ營業所ノ所在地、法人ノ名稱並ニ代表者ノ資格ヲ記載スヘシ

外國人又ハ外國法人ノ物權ノ登記ニ關スル件

(明治三十二年三月法律第七十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル外國人又ハ外國法人ノ物權ノ登記ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國人又ハ外國法人カ改正條約實施前ニ爲シタル不動産又ハ船舶ニ關スル物權ノ得喪及ヒ其ノ變更ニ付登記ヲ爲スヘキ場合及ヒ其ノ登記ノ手續ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動産ニ關スル件 (明治三十二年七月勅令第三百二十九號)

朕外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動産ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國人又ハ外國法人カ不動産ニ關シ明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ該法ニ取得シタル權利カ第三者ニ對抗シ得ヘキモノナル場合ニ於テ右ノ期日前ニ其登記アラサリシトキハ其期日ヨリ一年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條 前條ノ不動産ニ關シテハ別ニ登記簿ヲ設ケ其不動産ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三條 前條ノ登記簿ハ其一川紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各土地又ハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ土地又ハ建物並ニ附屬建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ土地登記簿ニ在リテハ地上權、建物登記簿ニ在リテハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ先取特權、質權及ヒ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ貸借權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ前三項ニ掲ケサル權利ニ關スル事項ヲ記載ス
順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
第四條 登記ヲ申請スルニハ第三者ニ對抗スヘキ事項ヲ申請書ニ記載シ且必要ナル證明書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第五條 第一條ノ不動産ニ關スル外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一ノ效力ヲ有ス
不動産登記法第六十三條ノ規定ハ外國領事廳ニ於テ登記シタル不動産ニ付キ此勅令施行ノ後
登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

司法大臣ハ前二項ニ定メタル事項ニ關シ必要ナル省令ヲ發スルコトヲ得

第六條 此勅令ニ規定セサル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス

附 則

此勅令ハ明治三十二年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動産ニ關スル登記取扱手續 (明治三十二年七月司法省令第四十一號)

外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動産ニ關スル登記取扱手續左ノ通相定ム

第一條 明治三十二年勅令第三百二十九號第一條ノ規定ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル
モノヲ除ク外不動産登記法施行細則ノ規定ヲ準用ス

第二條 外國人又ハ外國法人ノ權利ニ關スル土地登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ外國人又ハ外國
法人ノ權利ニ關スル建物登記簿ハ附錄第二號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ハ地方裁判所ニ於テ國別ニ之ヲ編綴シ地方裁判所長其ノ枚數
ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シ且毎葉ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲シ之ヲ管轄登記

所ニ交付スヘシ

第四條 地方裁判所ニ於テハ外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ノ譯文ヲ作り其譯文ニ付テモ前條ノ手續
ヲ爲スヘシ

第五條 外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ニハ地方裁判所ニ於テ各冊ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ各登
記ニ番號ヲ附シ登記簿ノ謄本ノ譯文ニモ之ト同一ノ番號ヲ附スヘシ

第六條 明治三十二年勅令第三百二十九號第四條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附スヘキ證明書カ外國
語ヲ以テ記載シタルモノナルトキハ申請人ハ之ニ其譯文ヲ添附スヘシ

第七條 明治三十二年勅令第三百二十九號第五條第二項ノ規定ニ依リ外國領事廳ノ登記簿ヲ登記簿
ニ移スニハ其譯文ニ依ルヘシ

第八條 外國領事廳ノ登記簿ヲ登記簿ニ移シタルトキハ外國領事廳ノ登記簿ノ謄本及ヒ其譯文ニ登
記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨、登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第九條 明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依ル登記ニ付テハ特別ニ土地登記見出帳及ヒ建物登
記見出帳ヲ備フヘシ但見出帳ニハ外國領事廳ノ登記ニ關スル事項ヲモ記入スヘシ

第十條 帝國ノ臣民又ハ法人カ外國人又ハ外國法人ノ爲メニ永久存續ノ意思ヲ以テ設定シタル地
上權又ハ賃借權ヲ取得シタル場合ニ於テ外國人又ハ外國法人ノ權利ニ關スル土地登記簿ニ其登
記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ其權利ニ關スル登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其登記用紙中地上權又ハ賃借權ヲ目的トシタル他ノ權利ニ關スル登記アルト
キハ其登記ニ付キ抹消ノ登記ヲ爲シ登記用紙中他ノ權利ニ關スル登記ナキニ至リタル後登記用
紙ヲ閉鎖スヘシ

第十一條 帝國ノ臣民又ハ法人カ明治三十二年勅令第三百三十三號第一條又ハ第二條ニ依リテ土地ノ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テ外國人又ハ外國法人ノ權利ニ關スル土地登記簿ノ登記用紙中地上權又ハ賃借權ヲ目的トシタル他ノ權利ニ關スル登記アリテ其登記カ未タ抹消ニ係ラサルトキハ其所有權ノミニ付キ普通登記簿ニ登記ヲ爲スヘシ

第十二條 普通登記簿及ヒ外國人又ハ外國法人ノ權利ニ關スル土地登記簿又ハ外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ニ同一ノ土地ニ關スル登記アル場合ニ於テハ登記官吏ハ各登記簿ノ用紙中（外國領事廳ノ登記簿ノ謄本ニ付テハ其譯文ヲ包含ス）適當ノ場所ニ便宜ノ方法ヲ以テ交互參看ノ符號ヲ附スヘシ

附錄第一號

外國人又ハ外國法土地登記簿
人ノ權利ニ關スル

區 裁 判 所

紙 數 表 紙 ヲ 除 キ 枚

地 方 裁 判 所 長

(權及買持先 當七權權取)	區	乙		(權上地) 區
		番順位	事項欄	
	外 ノ 國 權 人 利 又 ハ 獨 外 國 法 土 地 登 記 簿	番順位	事項欄	
		番順位	事項欄	
		番順位	事項欄	
		番順位	事項欄	
	丁	番順位	事項欄	

甲		番登	第	號	
		(示表地上) 部 題 表			
外 ノ 國 權 人 利 又 ハ 獨 外 國 法 土 地 登 記 簿	番順位	表 示 欄			
	事項欄				
	番順位		表 示 欄		
	事項欄		表 示 欄		
	番順位	表 示 欄			
	事項欄	表 示 欄			
	番順位	表 示 欄			
	事項欄	表 示 欄			
	丁	表 示 欄			

區 丙 (檢借貸)		區 丁 (檢借前 利ルケニ三)	
番順位	事項欄	番順位	事項欄
番順位	事項欄	番順位	事項欄
番順位	事項欄	番順位	事項欄
番順位	事項欄	番順位	事項欄

外國人又ハ外國法土地登記簿

明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依ル登記ノ謄本
若ハ抄本ノ交付ノ請求又ハ登記簿若ハ其附屬書類ノ
閱覽ノ請求ニ關スル手数料ノ件

(明治三十二年七月司法省令第四十二號)

明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依ル登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ノ請求又ハ登記簿若クハ其
附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號ノ規定ニ準用ス

公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記取扱手續

(明治三十二年五月司法省令第十二號)

公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記取扱手續左ノ通相定ム

公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記取扱手續

第一條 明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同八年第十八號布告建物書入質規則ニ從
ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外不動産
登記法其他不動産ノ登記ニ關スル規程ニ依ル

第二條 前條ノ登記ヲ申請スル者ハ其中請書ニ公證ノ年月日、公證ノ番號及ヒ公證ノ順位ヲ記載
セシ公證ヲ經タル證書ヲ添附スヘシ

第三條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數カ公證ヲ經タル時ト異ナルトキハ申請書ニ不動産ノ新舊ノ表示ヲ爲シ且地目、段別又ハ坪數ニ付テハ其異ナル事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第四條 登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テ其種類、構造、建坪又ハ番號カ公證ヲ經タル時ト異ナルトキハ申請書ニ建物ノ新舊ノ表示ヲ爲シ且其異ナル事由ヲ疏明スヘシ

第五條 申請人カ公證ヲ經タル證書面ノ債權者ト異ナルトキハ申請書ニ其異ナル事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第六條 多數債權者中ノ一人又ハ數人カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ共ニ登記ヲ申請スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明シテ他ノ債權者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第七條 公證ヲ經タル證書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ニ登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所有者ノ承諾書ヲ添附シ又ハ所有者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシムヘシ但其所有者カ公證ヲ經タル時ト異ナルトキハ其異ナル事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第八條 登記官吏ハ左ノ場合ニ於テモ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スヘシ但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラズ

一 本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請書ニ掲ケタル不動産ノ表示又ハ債權者若クハ不動産ノ所有者ノ表示カ公證簿ト符合セサルトキ

二 申請書ニ掲ケタル債權者ノ權利ニ關スル事項カ公證簿ト符合セサルトキ

三 申請カ不動産登記法施行後一年内ニ爲シタルモノニ非サルトキ

第九條 登記ヲ爲ストキハ土地ニ付テハ丁區事項欄ニ建物ニ付テハ丙區事項欄ニ公證ノ年月日、公證ノ番號及ヒ公證ノ順位ヲモ記載スヘシ

第十條 不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ公證ヲ經タル買入又ハ書入ノ申請アリタルトキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ニ從ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ公證ヲ經タル買入又ハ書入ノ登記ノ申請ニ因リ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ公證ヲ經タル事項ノ登記ヲ爲スヘシ

第十一條 未登記ノ不動産ニ付キ公證ヲ經タル買入又ハ書入ノ登記ノ申請アリタルトキハ甲區事項欄ニ所有者ノ氏名住所及ヒ公證ヲ經タル買入又ハ書入ノ登記ノ申請ニ因リ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第十二條 登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ公證簿中登記シタル權利ノ公證ヲ抹消シ其事由及ヒ年月日ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第十三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ公證ヲ經タル證書又ハ申請書ノ副本ニ登記番號申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ債權者ニ還付スヘシ但申請書ノ副本ニ登記簿ノ旨ヲ記載スル場合ニ於テハ公證ノ年月日、公證ノ

番號及ヒ公證ノ順位ヲモ記載スヘシ

第十四條 登記官吏カ前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ遲滯ナク其不動産ノ表示、登記原因、其日附、債權者ノ姓名、住所、登記ノ目的、公證ヲ經タル權利ナルコト及ヒ登記済ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ但其不動産カ共有ナル場合ニ於テハ共有者ノ一人ニ通知スルヲ以テ足ル

前項ノ通知事項ハ不動産登記法施行細則第十四條第五號ノ通知簿ニ之ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第十五條 不動産登記法第六十二條第一項ニ定メタル期間内ニ公證取消ノ申請アリタルトキハ公證簿ノ公證ヲ抹シ其事由及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

土地登記簿建物登記簿及商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手数料

(明治三十二年五月司法省令第十四號)

土地登記簿、建物登記簿及ヒ商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手数料左ノ通相定ム

第一條 不動産登記法第二十一條又ハ非訟事件手續法第四百二十二條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其川紙一枚ニ付キ手数料金十錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノ

ト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二條 不動産登記法第二十一條ノ規定ニ依リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ手数料金十錢ヲ納ムヘシ

- 第三條 非訟事件手續法第四百二十三條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件手数料金十錢ヲ納ムヘシ
- 第四條 明治三十二年司法省令第十三號第二十七條ノ規定ニ依リ商業登記ニ付キ登記済證ノ交付ヲ請求スル者ハ手数料金五錢ヲ納ムヘシ
- 第五條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
- 第六條 第一條乃至第三條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

臺灣不動産登記規則

(明治三十二年六月律令第十二號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣不動産登記規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣不動産登記規則

第一條 不動産ニ關スル權利ノ登記ニ付テハ不動産登記法ニ依リ地方法院又ハ其出張所ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第二條 不動産登記法中司法大臣ニ付與シタル職權ハ臺灣總督之ヲ行フ

第三條 不動産登記法中地方裁判所ノ職務ニ屬セシメタルモノハ覆審法院ヲシテ之ヲ行ハシム

附 則

第四條 此規則ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム(明治三十二年七月臺灣總督府令第八十二號ヲ以テ此施行期日ヲ同年十月一日ト定ム)

第五條 此規則ハ當分ノ内土地ニ關スル權利ニ適用セス
第六條 明治三十一年律令第九號民事商事及刑事ニ關スル律令施行規則中建物ノ登記ニ關スル規定ハ此規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

臺灣不動產登記規則ニ依ル建物ノ登記ニ關スル取扱手續 (明治三十二年七月臺灣總督府令第八十一號)

明治三十二年律令第十二號臺灣不動產登記規則ニ依ル建物ノ登記ニ關スル取扱手續ハ明治三十二年(五月)司法省令第十一號不動產登記法施行細則ニ依ル
本令ハ臺灣不動產登記規則施行ノ日ヨリ施行ス

登記官吏ノ職務執行ニ關シテ爲ス抗告手續準據方

(明治三十一年八月臺灣總督府令第六十九號)

登記法ニ依リ登記官吏ノ職務執行ニ關シテ爲ス抗告手續ハ明治十九年(十一月)司法省令甲第三號抗告手續ニ依ル

登記照合用ニ供スル爲登記役場ニ印鑑差出ノ件

(明治三十一年八月臺灣總督府令第七十號)

第一條 建物及船舶ノ所有者ハ登記照合ノ用ニ供スル爲建物ニ付テハ其所在地船舶ニ付テハ其定繫場ヲ管轄スル地方法院若ハ其出張所ニ印鑑ヲ届出ツヘシ
改印シタルトキモ亦前項ニ同シ

印鑑ハ郵便ヲ以テ差出スモ妨ナシ

第二條 印鑑ハ左ノ雜形ニ依ルヘシ

印鑑雜形(用紙厚紙堅五寸横一寸)

印 鑑	住 所
氏 名	

臺灣ニ於ケル建物登記簿及商業登記簿等ノ謄本又ハ抄本ノ交付請求等ニ關スル件

(明治三十二年七月臺灣總督府令第八十三號)

建物登記簿及商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付、建物登記簿又ハ其付屬書類ノ閲覧及商業登記ニ付登記事項ノ證明並登記簿交付ヲ請求スル者ハ明治三十二年(五月)司法省令第十四號土地登記簿建物登記簿及商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル規定ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

法人及夫婦財產契約登記取扱手續

(明治三十二年五月司法省令第十五號)

法人及ヒ夫婦財產契約登記取扱手續左ノ通相定ム

法人及ヒ夫婦財產契約登記取扱手續

第一條 法人登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ夫婦財產契約登記簿ハ附錄第二號雜形ニ依リ地方裁

判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 法人登記見出帳ハ附錄第三號雜形ニ依リ夫婦財產契約登記見出帳ハ附錄第四號雜形ニ依

リ之ヲ調製スヘシ

第三條 登記所ニハ登記簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備ス

一 謄本抄本證明書交付帳

二 法人登記申請書附屬書類送込帳

三 夫婦財產契約登記申請書附屬書類送込帳

四 受領證原符元帳

五 決定原本級込帳

六 登記簿謄本級込帳

七 登記済證交付帳

八 抗告書類級込帳

九 印鑑簿

第四條 外國法人ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ事項ノ名稱カ或欄ノ表示ニ適合セサルトキ

ハ最モ之ニ類似セル欄ニ記載シタル上其名稱ヲ附記スヘシ

第五條 外國法人ノ事務所ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲シ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六條 民法施行法第二十條第一項ノ規定ニ依リテ申請シタル法人ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙

中第四欄ニ主務官廳ノ認可アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第七條 夫婦財產契約カ夫婦ノ一方ノ死亡ニ因リテ終了シタルトキハ他ノ一方ノ者ノミニテ登記

ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ申請書ニ其事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第八條 夫婦財產契約ニ關シ登記シタル事項ノ變更ノ登記又ハ夫婦財產契約ノ登記ノ更正ハ登記

用紙中管理者ノ變更及ヒ共有財産ノ分割欄ニ之ヲ爲スヘシ

第九條 商業登記取扱手續第二十三條及ヒ第二十六條ノ規定ハ法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第二十條乃至第二十四條、第

二十七條、第三十三條乃至第三十九條、第四十七條、第五十一條及ヒ商業登記取扱手續第五條乃

至第七條、第九條乃至第二十條、第二十四條、第二十五條、第二十七條乃至第三十二條、第四十六

條ノ規定ハ法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十一條 然利ヲ目的トスル法人ノ登記ニハ商會社ノ登記ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

第十二條 本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 明治三十一年(七月)司法省令第六號法人及ヒ夫婦財產契約登記取扱規則ハ本令施行

ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

更 變	七 出資ノ方		六 額資産ノ總		五 存立時期		四 ノ設立許可		三 目 的		二 事 務 所 稱		一 名 稱		登記ノ年月日及ヒ登記官印	登記ノ年月日	
	八 所名ノ理		九 月日及ヒ年		十 住氏人清		所名ノ算		明治		明治		明治		明治		明治
更 變	所名ノ算		住氏人清		月日及ヒ年		所名ノ理		明治		明治		明治		明治		明治

丁

附錄第一號

法人登記簿

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

區 裁 判 所

		號	番	登 號
管 理 者 之 變 更 及 共 有 財 產 之 分 割		夫 婦 財 產 契 約		契 約 者 之 住 所 名
管 理 者 之 變 更 及 共 有 財 產 之 分 割		夫 婦 財 產 契 約		
消 滅	管 理 者 之 變 更 及 共 有 財 產 之 分 割	夫 婦 財 產 契 約		

丁

附錄第二號 夫婦財產契約登記簿	紙數表紙ヲ除キ 枚	地方裁判所長	區 裁 判 所
--------------------	--------------	--------	------------------

部										
										法人ノ名稱
										法人ノ種類
										冊登記、丁簿數ノ
										登記番號
										備考

附錄第四號

夫婦財產契約登記見出帳

區
裁
判
所

部										
										法人ノ名稱
										法人ノ種類
										冊登記、丁簿數ノ
										登記番號
										備考

附錄第三號

法人登記見出帳

區
裁
判
所

丁

第八條 明治三十一年司法省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十一年司法省令第十號ハ非訟事件手續法ニ依リ申請スヘキ謄本又ハ抄本ノ手数料ニ關スル件ナリ

臺灣ニ於ケル法人及夫婦財產契約ニ關スル登記取扱手續 (明治三十二年七月臺灣總督府令第六十八號)

法人及夫婦財產契約ニ關スル登記取扱手續ハ明治三十二年(五月)司法省令第十五號法人及夫婦財產契約登記取扱手續ニ依ル
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣ニ於ケル法人登記簿及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル件

(明治三十二年七月臺灣總督府令第八十五號)

法人登記簿及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付、登記事項ノ證明、登記濟證ノ交付、及財產管理ニ關スル書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スル者ハ明治三十二年(六月)司法省令第三十四號法人

登記簿及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル規定ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

印紙稅法 (明治三十二年三月法律第五十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙稅法

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未満トナリ又ハ一錢未満ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上ケルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 爲替手形、約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ

金高二千圓未満

印紙稅二錢

金高二千圓以上

印紙稅十錢

第四條 左ニ掲ケル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ下ニ

定ムル所ノ印紙税ヲ納ムヘシ

- 一 委任状 印紙税一錢
- 一 銀行預金證書 印紙税二錢
- 一 船荷證券 印紙税二錢
- 一 運送貨物引換證 印紙税二錢
- 一 倉荷預證券 印紙税二錢
- 一 倉荷買入證券 印紙税二錢
- 一 保險證券 印紙税二錢
- 一 株券 印紙税二錢
- 一 倍券 印紙税二錢
- 一 株式申込證 印紙税二錢
- 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙税二錢
- 一 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙税二錢
- 一 一定款及組合契約書 印紙税二錢
- 一 權利ノ變更ニ關スル證書 印紙税二錢
- 一 追認承認ニ關スル證書 印紙税二錢
- 一 物品切手 印紙税二錢
- 一 寶買仕切書 印紙税二錢

- 一 送狀 印紙税二錢
 - 一 受取書 印紙税二錢
 - 一 金高記載ナキ證書 印紙税二錢
 - 一 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙税二錢
 - 一 通帳 印紙税二錢
 - 一 列取帳 印紙税二十錢
- 第五條 左ニ掲ケル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
 - 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
 - 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
 - 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金貨物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
 - 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
 - 一 小切手
 - 一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形
 - 一 營業ニ關セサル受取書
 - 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ寶買仕切書
 - 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
 - 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
 - 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載

一手形ノ引受、保證
一手形及證券ノ拒絶證書
一手形及證券ノ複本、謄本

第六條 印紙稅ハ證書帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形、約束手形、船荷證券
運送貨物引換證、倉荷預證券、倉荷實入證券、保險證券、株券、債券ハ印紙稅額ニ相當スル現
金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス
第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙
ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋ニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ
印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ
第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫
稅高二十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス
第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
附則

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形印紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自川者
ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ税金
高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

印紙稅法ニ依リ證書ニ稅印ノ押捺ヲ求ムル手續

(明治三十二年三月大藏省令第五號)

印紙稅法第六條ニ依リ證書ニ稅印ノ押捺ヲ求メントスル者ハ所轄稅務署ニ申出税金ヲ納付シ其ノ
領收書又ハ稅務署ノ納稅濟證明書ヲ添へ川紙ト共ニ請求書ヲ大藏省ニ提出スヘシ

登録稅法(明治二十九年三月法律第二十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登録稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録稅法

第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(明治三十二年三
月法律第八十三號ヲ以テ本條ヲ改メ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス)

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格

千分ノ七

- 二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得
不動產價格 千分ノ十五
- 三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
不動產價格 千分ノ四十
- 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得
不動產價格 千分ノ二十五
- 五 從來保有セル所有權ノ保存
不動產價格 千分ノ二
- 六 共有物ノ分割
分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格 千分ノ五
- 七 永代ノ地上權ノ取得
不動產價格 千分ノ二十五
- 八 地上權、永小作權ノ取得
存續期間十年未滿 不動產價格 千分ノ二
存續期間二十年未滿 不動產價格 千分ノ三
存續期間三十年未滿 不動產價格 千分ノ四
存續期間三十年以上 不動產價格 千分ノ五
存續期間ノ定メナキモノ 不動產價格 千分ノ五
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス
- 九 貸借權ノ取得

- 存續期間十年未滿 不動產價格 千分ノ一
- 存續期間十年以上 不動產價格 千分ノ二
- 存續期間ノ定メナキモノ 不動產價格 千分ノ一
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス
- 十 地役權ノ取得 要役地價格 千分ノ一
不動產價格 千分ノ二十
- 十一 華族世襲財產ノ創設
- 十二 先取特權ノ保存又ハ取得 債權金額又ハ不動產工事費用豫算金額 千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十三 質權、抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十四 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ六
但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十五 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四
但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ其ノモノノ價格

- 十六 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ六
但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十七 相續財産ノ分離 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ六
所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一
- 十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復 不動産價格 千分ノ一
- 十九 假登記 不動産每一箇 金二十錢
- 二十 豫告登記 不動産每一箇 金二十錢
- 二十一 附記登記 不動産每一箇 金二十錢
- 二十二 登記ノ更正、變更又ハ抹消 不動産每一箇 金十錢
- 第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
- 第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上)
- 一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
- 二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ六

- 三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十
- 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ十五
- 五 從來保有セル所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ一
- 六 賃借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一
- 存續期間十年未滿 船舶價格 千分ノ一
- 存續期間十年以上 船舶價格 千分ノ二
- 存續期間ノ定メナキモノ 船舶價格 千分ノ一
- 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス
- 七 質權抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 八 競賣ノ申立 債權金額 千分ノ六
但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 九 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價額ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ六
但シ差押ニ付スヘキモノノ價額カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價額ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 登記ノ更正、變更又ハ抹消 船舶每一箇 金十錢

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價額ニ依ル

第四條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上)

一 新規登録 每十噸 金五十錢

二 轉籍 每十噸 金十錢

三 除籍 每十噸 金五錢

四 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未満ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス
第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上)

一 新規登録 地價 千分ノ二十

二 地價ノ設定 地價 千分ノ十

三 地價ノ修正 地價 千分ノ十

四 開墾 地價 千分ノ十

五 鐵下年期付典 地價 千分ノ十

六 地價据置年期付典 地價 千分ノ十

七 鐵下年期ノ續年期付典 地價 千分ノ十

八 新開免租年期ノ續年期付典 地價 千分ノ十

九 低價年期ノ付典 地價 千分ノ一

十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價 千分ノ一

十一 地價ノ復舊 地價 千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍地地價ノ比準ニ依ル

第六條 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ税金十圓未満ナルトキハ十圓トス(同上)

一 合名會社、合資會社設立 財產ヲ目的トスル出資ノ價額 千分ノ三

二 合名會社、合資會社出資増加 財產ヲ目的トスル増出資ノ價額 千分ノ三

三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ四

四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ四

- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込
 毎回拂込株金額 千分ノ四
- 六 株式合資會社設立
 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ四
- 七 株式合資會社資本増加
 増資拂込株金額及資産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ四
- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込
 毎回拂込金額 千分ノ四
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立
 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一
- 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加
 増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一
- 十一 債券發行
 債權總金額 千分ノ一
- 十二 支店設置
 每一箇所 金十圓
- 十三 本店又ハ支店ノ移轉
 每一件 金五圓
- 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
 每一件 金五圓
- 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
 每一件 金五圓

- 但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
- 十六 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金五圓
 - 十七 解散 每一件 金三圓
 - 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金一圓
 - 十九 清算ノ結了 每一件 金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 法人ノ設立 (民法施行ニ依リ法人ト認メラレタルモノノ新ニ受クル登記トモ) 每一件 金五圓
 - 二 法人設立後ノ事務所設置 每一件 金三圓
 - 三 事務所ノ移轉 每一件 金二圓
 - 四 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金一圓
 - 五 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓
 - 六 解散 每一件 金五十錢
 - 七 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金五十錢
 - 八 清算ノ結了 每一件 金五十錢
- 主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ

第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上法令ヲ以テ本條ヲ新設ス施行期日同上)

- 一 商號ノ新設又ハ取得 每一件 金五圓
 - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓
 - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓
 - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金五圓
 - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金二圓
 - 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金二圓
 - 七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録 金二十圓
 - 二 登録換 金十圓
 - 三 取消ノ請求 金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上法令ヲ以テ「假免許蹄鐵工」ノ一項ヲ加フ)

- 一 新規登録
 - 醫師 金二十圓
 - 藥劑師 金十二圓
 - 獸醫 金十二圓
 - 蹄鐵工 金五圓
 - 假開業醫師 金五圓
 - 假免許獸醫 金三圓
 - 假免許蹄鐵工 金一圓
 - 二 登録事項ノ變更 每一件金五十錢
- 第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上)
- 一 新規登録
 - 甲種船長 金十五圓
 - 甲種一等運轉士 金十圓
 - 甲種二等運轉士 金六圓
 - 乙種船長 金十圓
 - 乙種一等運轉士 金四圓
 - 乙種二等運轉士 金三圓

- 丙種船長 金六圓
- 丙種運轉士 金二圓
- 機關長 金十五圓
- 一等機關士 金十圓
- 二等機關士 金六圓
- 三等機關士 金三圓
- 水先人 金二十圓

二 登錄事項ノ變更 每一件金五十錢

第十條 著作權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(同上法令ヲ以テ本條ヲ改メ同年七月十六日ヨリ之ヲ施行ス)

- 一文藝、學術、美術ノ著作物 每一種一回 金十圓
- 但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク
- 一新聞紙及定期刊行物 每一號 金五十錢
- 一演劇脚本 每一種一回 金五十圓
- 一寫眞 每一版 金五圓
- 一著作權ノ讓渡又ハ質入 每一件 金五圓
- 一無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄 每一件 金五圓

第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(明治三十二年三月法

律第六十號ヲ以テ本條ヲ改メ同年七月一日ヨリ施行ス)

- 一 讓渡又ハ共有 每一件 金十圓
- 二 質入 每一件 金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(同上)
- 一 讓渡又ハ共有 物品一類毎ニ 金二圓
- 二 質入 物品一類毎ニ 金一圓
- 第十三條 商標ニ關シ左ノ事項ノ登錄ヲ受クル者ハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ(同上)
- 讓渡又ハ共有 商品一類毎ニ 金十圓
- 第十四條 鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(明治三十二年三月法律第八十三號ヲ以テ本條ヲ改メ同年四月一日ヨリ施行ス)

- 一 試掘 金七十五圓
- 二 探掘 金百五十圓
- 三 試掘增區及増減區ニ係ル訂正 金三十圓
- 四 探掘增區及増減區ニ係ル訂正 金七十五圓
- 五 買受、讓受 金七十五圓
- 六 探掘權書入又ハ試掘延期 金二十圓
- 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
- 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金十五圓
- 九 廢業 金五圓

第十六條 國債ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上)

- 一 新規登録 債權金額 千分ノ二
- 二 登録變更 債權金額 千分ノ一
- 三 登録除却 債權金額 千分ノ一

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録稅ヲ課セス(同上)

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記
- 二 公立ノ學校、病院及養育院ノ所川ニ係ル不動産ノ登記
- 三 公園、社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記
- 四 明治六年第十八號布告地所實入書入規則及同八年第百四十八號布告建物書入實規則ニ從

ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セザルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム(同上法令ヲ以テ本條ヲ新設ス施行期日同上)

前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス
官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附 則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

登録稅法施行規則 (明治三十二年五月勅令第二百五號)

朕登録稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
登録稅法施行規則

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録稅ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登録稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其官廳又ハ公署ハ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添附シテ登記所ニ送付スヘシ

第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セザルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手摺ヲ爲サザルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第六條 登録稅法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上二圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

臺灣ニ登録稅法ヲ施行スルノ件

(明治三十二年七月勅令第三百二十二號)

朕臺灣ニ登録稅法ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録税法中土地ノ登記ニ關スルモノ及第四條第五條第八條第九條第十四條ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

公證人規則 (明治十九年八月法律第二號)

朕公證人規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
公證人規則

第一章 總 則

- 第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應ジ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス
- 第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ效ヲ有セス
- 第三條 公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スル力アルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得
- 第四條 公證人ハ「治安」裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄「始審」裁判所ノ認可ヲ受ケ可シ
- 已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限リ役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ
- 第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長「始審」裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ效ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求アレハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄「始審」裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄「始審」裁判所及「治安」裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ印鑑ヲ差出ササル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ效ヲ有セス

第十一條 公證人已ムヲ得ヤル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑託シ管轄「始審」裁判所ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及ヒ謄本ノ用紙ハ某「始審」裁判所管内公證人役場ト刻シタル郵便紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ
第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ
第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文職務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

- 第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ
 - 第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ
 - 第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ
 - 第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ
 - 第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ
 - 第八 見山帳 日付授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ
 - 第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クルルハメノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス
 - 第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可カラス
 - 第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩ス可ラス
- 第二章 公證人ノ選任及試験
- 第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス
 - 第一 滿二十五歳以上ナル事
 - 第二 身元保證金ヲ管轄「始審」裁判所ニ差入ルル事
 - 第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代官人ハ此條件ヲ要セス
 - 第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事
 - 第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ二百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム
 - 第二十條 左ニ掲グル者ハ公證人タルコトヲ得ス

- 第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者
 - 第二 盜罪詐偽賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者
 - 第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
 - 第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者
 - 第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クトモ二箇月前ニ告示ス可シ
 - 第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ「始審」裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス
 - 第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス
 - 第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ符轄「始審」裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記料大學卒業學生ハ其卒業證書「代官人」ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得
 - 第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス
 - 第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス
 - 第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス
- 第三章 證書
- 第一節 證書ノ原本
 - 第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立

會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス
公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知り而識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件件ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齡

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タル證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第四 郡區長戶長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齡

第五 證書ヲ作りシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス
接綴ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接綴ス可シ

數量竝ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾陌仟萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

既ニ廢シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字竝ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人竝ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人竝ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加、改正、消字ノ效ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作りタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人竝ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某「治安」裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ

公證人竝ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人竝ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ「代理人」ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラズ若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲ササルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連綴ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人竝ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ刺印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得之ヲ連綴シタルトキハ其旨原本ノ摺外又ハ末尾ニ附記シ公證人竝ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ「證券印稅規則」ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ
第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ效ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄「始審」裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ於テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾竝ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名竝ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公證人竝ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之レニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄「始審」裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ因リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラヌ又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラヌ之ヲ渡スト雖モ其效ヲ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄「始審」裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其效ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄「始審」裁判所ニ願出ツ可シ管轄「始審」裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可スヘキコトヲ命スルコトアルヘシ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其效チ有セス
第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其效力モ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可シ
第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄「始審」裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ
第三節 見出帳

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄「始審」裁判所ニ差出シ綴自合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條 見出帳ニハ口日取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件件ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄「始審」裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ
役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキハ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄「始審」裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄「始審」裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄「始審」裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄「始審」裁判所ニ差出ス可シ

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ
第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄「始審」裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄「始審」裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ
第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼入タル旨ヲ附記ス可シ

本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ
第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル極限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得
第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行

ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス
第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料

ニ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得
第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎

ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ
第六十九條 手数料ノ外證券印紙或ニ郵紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ
第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラヌ管轄「始審」裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄「始審」裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條ニ

テ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サザリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

- 第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時
- 第六十一條ニ違ヒタル時
- 第六十三條ニ違ヒタル時
- 第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス
 - 第四十三條ニ違ヒタル時
 - 第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時
 - 第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時
 - 第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時
 - 第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス
 - 第二條ニ違ヒタル時
 - 第七條ニ違ヒタル時
 - 第十條ノ第二項ニ違ヒタル時
 - 第二十八條ニ違ヒタル時
 - 第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時
 - 第三十三條ニ違ヒタル時
 - 第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時
 - 第三十六條ニ違ヒタル時
 - 第三十七條ニ違ヒタル時

- 第三十八條ニ違ヒタル時
- 第三十九條ニ違ヒタル時
- 第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス
 - 第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
 - 第十五條ニ違ヒタル時
 - 第十六條ニ違ヒタル時
 - 第十七條ニ違ヒタル時
- 第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ效力ナキモノトス
- 第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス
- 第二十條第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ
- 第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ此ヲ賠償ス可シ

公證人規則施行條例 (明治十九年八月司法省令甲第二號)

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通り之ヲ定ム

公證人規則施行條例

第一條 公證人ハ各區裁判所管内二十名以下ヲ置ク但東京區裁判所管内(明治二十九年十二月二十五日司法省令第五十七號ヲ以テ本條全體ヲ改ム)

第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ「始審」裁判所ニ差出シ
控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ

「始審」裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス
可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルトキハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス
第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルトキモ亦前
條ノ手續ニ從フ可シ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲ク可シ
役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス

書類ハ常ニ書籍ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試験ヲ受ケント欲スル者ハ試験願書ニ履歷書ヲ添ヘ試験期日ノ告示ア
リタルヨリ試験期日一箇月前マテニ試験ヲ行フ控訴院若クハ「始審」裁判所ニ差出ス可シ
試験願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戶長ノ與書ヲ受ク可シ

第六條 試験ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條 試験委員ハ筆記試験ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試験ヲ行フ可シ
筆記試験ニ合格セサル者ニ付テハ口述試験ヲ行ハス

第八條 試験問題答案ノ適否ハ試験委員ノ判斷ニ決スルモノトス
試験ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條 試験委員ハ口述試験ノ大略及試験全體ノ結果ヲ記錄ニ記載ス可シ

第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

試験ヲ行フタル控訴院若クハ「始審」裁判所ハ試験及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名
年齢及ヒ及第ノ年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條 試験委員ハ試験ニ關スル一切ノ書類ヲ其試験ヲ行フタル「始審」裁判所若クハ控訴院ノ
長ニ差出ス可シ

「始審」裁判所ニ於テ試験ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附
シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

控訴院ニ於テ試験ヲ行フタルトキハ前項書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ
第十二條 公證人タラント欲スル者ハ其願書ニ試験及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫
及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ

試験及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ

第十三條 公證人願書ヲ受タル「始審」裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正
否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法
大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公證人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出シタルトキハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ
且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任スルトキハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及
「始審」裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及「始審」裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年
齡及任地ヲ記録ス可シ

第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書若クハ
日本銀行株券ヲ管轄「始審」裁判所ニ納ム可シ

第十八條 公證人ノ納ム可キ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ
東京及大阪 金五百圓

他ノ地方ニ於テハ

人口貳拾萬以上受持區

金四百圓

人口貳拾萬未滿拾萬以上アル受持區

金三百圓

人口拾萬未滿ノ受持區

金二百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ増減セス

第十九條 公證人ハ身元保證金ヲ管轄「始審」裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス
公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサルトキハ公證人規則第
七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノ
トス

第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ消滅シタルトキハ管轄「始
審」裁判所長ハ速ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命スヘシ
公證人保證金ヲ補充スルマテ「始審」裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得此場合ニ

於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルトキハ「始審」裁判所長ハ控訴院ヲ
經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ
餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公證人其職務ヲ罷タルトキハ身元保證金ヲ還付ス可シ

第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄「始審」裁判所ハ控訴院ヲ經
由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルトキモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ「始審」裁判所及控訴院ハ其旨
ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及「治罪法」ノ例ヲ用ヒ
ス

第二十七條 公證人試驗願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ
(書式ハ之ヲ略ス)

登記官吏及公證人ニ對スル抗告手續

(明治十九年十一月司法省令第三號)

今般法律「第一號」第二號ヲ以テ「登記法及ヒ」公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム(明治三十二年二月法律第二十四號ヲ以テ公布ニナリタル不動産登記法(第五章)ニ於テ登記官吏ニ對スル抗告手續ヲ定メタルヲ以テ本令中登記官吏ニ對スル規定ハ同法施行ノ時ヨリ消滅ス)抗告手續

第一條「登記官吏」又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ差出ス可シ

第二條「登記官吏又ハ」公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄「始審」裁判所ニ送致ス可シ

第三條「登記官吏又ハ」公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄「始審」裁判所ニ送致セサルトキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直チニ管轄「始審」裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得「始審」裁判所ハ抗告ヲ受ケタル「登記官吏又ハ」公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求ムルコトヲ得

第四條「登記官吏又ハ」公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止ス可シ第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄「始審」裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ

「始審」裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辯セシムルコトヲ得

第六條 「始審」裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄「治安」裁判所ニ送致シ之ヲ「登記官吏又ハ」公證人及ヒ抗告者ニ送致セシム可シ

「始審」裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ「登記官吏又ハ」公證人ハ其判定ニ依リ

處分ヲ更正ス可シ

第十條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄「始審」裁判所ニ抗告狀ヲ差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ第二條ノ期限内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲ス可シ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル「始審」裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ

控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル「始審」裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

戸 籍 法 (明治三十一年六月法律第十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル戸籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 戸籍吏及ヒ戸籍役場

第一條 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍吏之ヲ管掌シ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ

第二條 市町村長ヲ以テ戸籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條 戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

第四條 戶籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ヲ監督ス

戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 戶籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戶籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第二章 身分登記簿
第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

第九條 戶籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戶籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 身分登記簿ノ用紙力不足ナルトキハ戶籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作り契印ヲ請フコトヲ要ス

第十一條 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戶籍役場ニ保存スルコトヲ要ス

登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

第十二條 身分登記簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戶籍役場外ニ持出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閱覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵便料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ複製又ハ補充ニ付必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

第三章 登記手續

第十五條 身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 戶籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 二 戶籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ
- 三 戶籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 四 戶籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 五 戶籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ
- 六 戶籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

第十六條 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出、送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十八條 戶籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及七年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 登記ハ本籍人、非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戶籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 登記ヲ爲スヘキ事實カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル

第二十七條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲ササリシトキハ戶籍吏ハ戶籍役場ノ

所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戶籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職、氏名
三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ謄本發送者ノ官職、氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名
第二十九條 登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用井ス字畫明瞭ナルコトヲ要ス
年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用井スシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字数ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戶籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第三十條 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續ヒシムルコトヲ要ス

第三十一條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス
第三十二條 欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十四條 被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戶籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ管轄戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十六條 第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戶籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ

第三十七條 登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條 前條ノ書類ハ一个月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滯ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戶籍吏ハ遲滯ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戶籍吏ハ遲滯ナク之ヲ届出又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

第四十一條 戶籍吏ハ毎年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用キ盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四章 身分ニ關スル届出

第一節 通 則

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戶籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

届出人カ本籍ヲ有セザルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戶籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

一 届出事件

二 届出ノ年月日

三 届出人ノ族稱職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

第四十五條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戶主ノ氏名及ヒ届出人ト戶主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十六條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得シテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四十八條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第四十九條 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ

記載スルコトヲ要ス

第五十條 本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戶籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十一條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本籍地ノ戶籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地カ戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正副二本ヲ作リ届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一並副本二通テ作ルコトヲ要ス

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戶籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戶籍吏ハ直チニ其口述竝ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戶籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承諾又ハ承認ノ說明ニ之ヲ準用ス

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戶籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三個月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一個月内ニ本籍地ノ戶籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス
裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但戶籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戶籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戶籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戶籍吏ノ催告ニ應セルトキ亦同シ

第六十四條 戶籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戶籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十六條 届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二節 出生

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨

三 出生ノ年月日時及ヒ場所

四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地

六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因

七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコト

ヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

第七十一條 嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戶主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十二條 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出
ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス
父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ第六十八條ニ掲ケタル
諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請
スルコトヲ要ス

第七十四條 病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲
スコト能ハサルトキハ病院、監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコ
トヲ要ス

第七十五條 棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス
棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ
場所、年月日時其他ノ景況並ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、
本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調査ニ記載シテ之ヲ届書ニ添
ヘ置クコトヲ要ス

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
第二項ノ調査ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ
且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ
棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ乗船者中ヨリ選ミ
タル証人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ証人ト共ニ署名、捺印シ且
証人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ其出
生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其
國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外
務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三節 嫡出子否認

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ左ノ諸
件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ
申請スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

第四節 私生子認知

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ得ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日

三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
四 父カ認知チ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名職業及ヒ本籍地
前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト母トノ
纏柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 民法條八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知チ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏
名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十二條 民法條八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要
スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添へ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ
旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知チ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨ
リ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ原本ヲ添へ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ
知リタル日ヨリ一个月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出
チ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第五節 養子縁組

第八十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外婚
家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條 民法條八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組
ノ届出チ爲スコトヲ要ス

第八十七條 民法條七百四十一條第二項、第七百五十一條第一項、第八百四十一條第二項及ヒ第
八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意
ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添へ又同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意
ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第八十八條 民法條八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合
ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 民法條八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出チ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ掲ケ
タル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ原本ヲ添フルコトヲ要
ス

第九十條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條 縁組カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申
請スルコトヲ要ス

第九十二條 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日
ヨリ一个月内ニ裁判ノ原本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十三條 第八十五條及第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第九十四條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節 養子縁組

第九十五條

縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 縁組ノ年月日
- 五 縁組カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名
- 七 養子カ復籍スヘキ家ノ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第九十六條 民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ養親及養子ニ代

ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 民法第八百六十二條第三項及ヒ第八百六十三條ノ規定ニ依リ戶主、父母、後見人又

ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者

ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條 縁組ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提出シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判

ノ勝本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及ヒ第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第一百一條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節 婚姻

第一百二條 婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地
 - 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
 - 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
 - 四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨
 - 五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戶主ト爲ラサルトキハ其旨
 - 六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日
- 當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戶主又ハ養親ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第一百三條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ戶主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第百四條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百五條 婚姻カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス
第百六條 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス
檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢事ヨリ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要ス

第百七條 第百二條及ヒ第百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第百八條 第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 離婚

第百九條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 婚姻ノ年月日
- 五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 當事者カ復籍スヘキ家ノ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第百十條 民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添へ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第百十一條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添へテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百十二條 第百九條及ヒ第百十條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第百十三條 第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第九節 後見

第百十四條 後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所
- 二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 三 被後見人カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日
- 五 後見人就職ノ年月日

第百十五條 後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百十六條 後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ届書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ屆書ニ其選任ニ關スル證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第百十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 就職ノ年月日
- 三 任務終了ノ原因及ヒ年月日

後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前項ノ届出ハ後見監督人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十節 隠居

第百十九條 隠居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 隠居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 家督相繼人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相繼人ト隠居者トノ續柄
- 三 隠居ノ原因

第百二十條 裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百二十一條 隠居ノ届出人ハ届書ニ家督相繼人ノ承認ノ證書ヲ添ヘ又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百五十五條第二項ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十二條 隠居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一節 失踪

第百二十三條 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 失踪者ノ氏名、生出ノ年月日職業及ヒ本籍地
- 二 失踪ノ宣告アリタル年月日
- 三 失踪者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名族稱及ヒ戶主ト失踪者トノ續柄

第百二十四條 失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二節 死亡

第百二十五條 死亡者アリタルトキハ届出義務者ハ其死亡ヲ知りタル日ヨリ五日内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診断若クハ検案書又ハ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 死亡者ノ氏名、年月日、男女ノ別及ヒ本籍地
- 二 死亡ノ年月日時及ヒ場所
- 三 死亡者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト死亡者トノ續柄

前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得
第百二十六條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ土地者クハ家屋ノ管理人

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第百二十七條 死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地者クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十八條 第七十條及ヒ第七十四條ノ規定ハ死亡届出ニ之ヲ準用ス

第百二十九條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ運滞ナク第百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者アリテ死體ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ醫師ノ診斷書又ハ檢察書ヲ添フルコトヲ要ス

第百三十條 航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ運滞ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第百三十一條 艦船ノ難破ニ因リテ乗組員及ヒ乗客ノ全部又ハ一部カ死亡シタルトキハ其難破ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス且其何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルトキハ警察官ハ檢視調書ヲ作り運滞ナク之ヲ其地ノ戸籍吏ニ報告スルコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ運滞ナク前ニ報告ヲ受ケタル戸籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第百二十六條第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル死亡届出義務者カ前項ノ事實ヲ知りタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢察書ニ代ヘ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添フルコトヲ得

第十三節 家督相續

第百三十三條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一個月内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

一 家督相續ノ原因及戸主ト爲リタル年月日

二 前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ三個月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第百三十四條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一個月内ニ前條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且前ニ爲シタル家督相

綴ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第三百三十五條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一
个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス
一 相續開始ノ年月日

二 家督相續人ノ胎兒ナルコト

三 前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ綴柄

第三百三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ於テ其胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ
母ハ出産ノ日ヨリ一ケ月内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産婆ノ檢案書ヲ提出シテ家督相續ノ登
記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

母カ登記取消ノ申請ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ケ月内ニ登記ノ
取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四節 推定家督相續人ノ廢除

第三百三十七條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ被相續人ハ裁判確定ノ日ヨリ十日
内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
一 廢除セラレタル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 廢除ノ原因

三 廢除ノ裁判カ確定シタル年月日

第三百三十八條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタル場合ニ於テ廢

除ノ裁判カ確定シタルトキハ前條ノ届出ハ遺言執行者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十九條 推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁
判確定ノ日ヨリ一ケ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五節 家督相續人ノ指定

第四百十條 家督相續人指定ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス
一 指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

二 法定ノ推定家督相續人ナキコト

第四百十一條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ家督相續人指定ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ前
條ニ掲ケタル諸件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添
フルコトヲ要ス

第四百十二條 家督相續人指定ノ取消ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス
一 指定家督相續人ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 指定ノ年月日

第四百十三條 家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申
請スルコトヲ要ス

第四百十四條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ前二條
ノ規定ニ依ル外届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ謄本
ヲ添フルコトヲ要ス